

平成 30 年度

学生生活調査報告

独立行政法人日本学生支援機構

平成 30 年度 学生生活調査

まえがき

日本学生支援機構では、学生の標準的な学生生活状況を把握し、学生生活支援事業の充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成 16 年度から隔年で「学生生活調査」を実施しています。本調査は、平成 14 年度までは文部科学省において実施していましたが、平成 16 年 4 月の日本学生支援機構（JASSO）の設立に伴い、文部科学省から業務が移管されました。

平成 30 年度調査については、令和 2 年 3 月にその調査結果を取りまとめたところですが、本報告においては、大学昼間部、短期大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成 28 年度）との比較を行いながら調査の概要を説明するとともに、過去 10 年間の学生生活費や主な経費等の推移についての資料も掲載しています。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学本科及び大学院の学生（通信課程、休学者及び外国人留学生を除く。）を調査対象とし、各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国 2,968,471 人から 94,998 人を抽出し、平成 30 年 11 月現在で実施したものです。

調査の方法は、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公私）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め、サンプル数を算出し、各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて（一部区分については全数調査により）調査を依頼しました。回収率は 45.7%、有効回答数は 43,394 人で、本文で紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑で、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

末筆ながら、本調査に回答いただいた学生の皆様、本調査の実施に際して多大なご協力をいただいた全国の各大学及び各短期大学の関係者の皆様をはじめ、ご助言ご協力をいただきました関係者の方々に改めて深く感謝申し上げます。

独立行政法人 日本学生支援機構

目 次

まえがき

1.	学生生活費	
(1)	年間学生生活費	1
(2)	学生生活費の推移	1
(3)	設置者別の学生生活費	3
(4)	居住形態別の学生数の割合	4
(5)	居住形態別の学生生活費	5
(6)	地域別・居住形態別学生生活費	7
(7)	男女別・居住形態別学生生活費	8
(8)	学年別の学生生活費	10
2.	学生の収入の状況	11
3.	家庭からの給付額等	
(1)	家庭からの給付	14
(2)	家庭の年間平均収入	14
(3)	家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合	15
(4)	家庭の収入階層区分別学生数の割合	16
(5)	主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合	16
4.	アルバイトの従事状況	
(1)	アルバイトの従事状況	17
(2)	アルバイト従事時期別学生数の割合	19
(3)	アルバイト従事職種別学生数の割合	21
5.	奨学金の受給希望及び受給状況	
(1)	学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況	22
(2)	家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況	23
(3)	奨学金の種類別・設置者別受給状況	24
6.	居住形態別・地域別通学時間	25
7.	週間平均生活時間	27
8.	大学の学生支援体制への満足度	30
9.	学生の不安や悩み	31
	(参考)	
	㊤表：居住形態別・設置者別の学生生活費	33

平成 30 年度学生生活調査集計表

I. 大学・短期大学

A-1	居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳	(大学昼間部) 36
A-2	//	(大学夜間部) 37
A-3	//	(短期大学昼間部) 38
A-4	//	(短期大学夜間部) 39
B-1	居住形態別・地域別学生生活費の内訳	(大学昼間部) 40
B-2	//	(短期大学昼間部) 40
C-1	居住形態別・地域別学生数	(大学昼間部) 41
C-2	//	(短期大学昼間部) 41
D-1	学年別年間学費支出平均額	(大学昼間部) 42
D-2	//	(大学夜間部) 42
D-3	//	(短期大学昼間部) 43
D-4	//	(短期大学夜間部) 43
E-1	学科(専攻)系統別学費支出平均額	(大学昼間部) 44
E-2	//	(短期大学昼間部) 45
F-1	家庭の年間収入別学生数の割合	(大学昼間部) 46
F-2	//	(短期大学昼間部) 47
G-1	世帯区分別・家庭の年間収入別学生数の割合	(大学昼間部) 48
G-2	//	(短期大学昼間部) 49
H-1	家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合	(大学昼間部) 50
H-2	//	(短期大学昼間部) 50
I-1	家庭からの給付程度別・アルバイト収入使途別学生数の割合	(大学昼間部) 51
I-2	//	(短期大学昼間部) 52
J-1	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(大学昼間部) 53
J-2	//	(短期大学昼間部) 54
K-1	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(大学昼間部) 55
K-2	//	(短期大学昼間部) 56
L	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合 57
M-1	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(大学昼間部) 58
M-2	//	(短期大学昼間部) 58
N-1	設置者別・学生の不安や悩み	(大学昼間部) 59
N-2	//	(短期大学昼間部) 59
O-1	居住形態別・地域別片道通学時間	(大学昼間部) 60
O-2	//	(短期大学昼間部) 61
P-1	設置者別・週間平均生活時間	(大学昼間部) 62
P-2	//	(短期大学昼間部) 63

II. 大学院

A-1	居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳	(修士課程)	66
A-2	〃	(博士課程)	67
A-3	〃	(専門職学位課程)	68
B-1	居住形態別・地域別学生生活費の内訳	(修士課程)	69
B-2	〃	(博士課程)	69
B-3	〃	(専門職学位課程)	70
C-1	居住形態別・地域別学生数	(修士課程)	70
C-2	〃	(博士課程)	71
C-3	〃	(専門職学位課程)	71
D-1	学年別年間学費支出平均額	(修士課程)	72
D-2	〃	(博士課程)	72
D-3	〃	(専門職学位課程)	72
E-1	学科(専攻)系統別学費支出平均額	(修士課程)	73
E-2	〃	(博士課程)	74
E-3	〃	(専門職学位課程)	75
F-1	家庭の年間収入別学生数の割合	(修士課程)	76
F-2	〃	(博士課程)	77
F-3	〃	(専門職学位課程)	78
G-1	世帯区分別・家庭の年間収入別学生数の割合	(修士課程)	79
G-2	〃	(博士課程)	80
G-3	〃	(専門職学位課程)	81
H-1	家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合	(修士課程)	82
H-2	〃	(博士課程)	82
H-3	〃	(専門職学位課程)	83
I-1	家庭からの給付程度別・アルバイト収入用途別学生数の割合	(修士課程)	84
I-2	〃	(博士課程)	85
I-3	〃	(専門職学位課程)	86
J-1	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(修士課程)	87
J-2	〃	(博士課程)	88
J-3	〃	(専門職学位課程)	89
K-1	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(修士課程)	90
K-2	〃	(博士課程)	91
K-3	〃	(専門職学位課程)	92
L	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合		93
M-1	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(修士課程)	94
M-2	〃	(博士課程)	94
M-3	〃	(専門職学位課程)	95
N-1	設置者別・学生の不安や悩み	(修士課程)	96

N-2	〃	(博士課程)	96
N-3	〃	(専門職学位課程)	97
O-1	居住形態別・地域別片道通学時間	(修士課程)	98
O-2	〃	(博士課程)	99
O-3	〃	(専門職学位課程)	100
P-1	設置者別・週間平均生活時間	(修士課程)	101
P-2	〃	(博士課程)	102
P-3	〃	(専門職学位課程)	103

参考資料

資料1	平成30年度学生生活調査実施要領	107
資料2	調査票様式及び調査票記入要領	114
資料3	過去10年間の学生生活費－学生生活調査結果から－	
	(1) 大学昼間部・短期大学昼間部	136
	(2) 大学院	145
資料4	主な経費等の推移の図・グラフ (平成12年度調査以降)	
	(1) 学生生活費及び収入額内訳の推移	154
	(2) 家庭からの給付程度別アルバイト従事状況の推移	159
	(3) 奨学金受給状況の推移	164

〔留意事項〕

1. 本調査における学生生活費は学費と生活費を合わせたものである。
学 費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計
生活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費(通信費を含む)の合計
2. 本報告の集計各表は端数処理(四捨五入)後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。
3. 本報告の「大学」は、大学学部のことを言う。
また「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程」は、大学院の下記の各課程のことを言う。

修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期2年(医・歯・薬・獣医を除く)
博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期3年、一貫制博士課程(医・歯・薬・獣医)
専門職学位課程	法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程

4. 専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。なお、大学院については、配偶者を有すると回答した者は、学生生活費が大きく異なるケースが想定されるため、従前の例にならない学生生活費等の集計に含まない。
5. 大学及び短期大学については、平成26年度から文部科学省国立教育政策研究所との共同により大学生等の学習状況に関する調査項目を追加した。調査結果等については、文部科学省国立教育政策研究所ホームページに掲載されている。
6. 質問の一部に回答がない調査票は、一部の集計の際に集計対象から外したものである。
7. 集計各表の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として調査対象学生総数から推計値を算出した結果である。
8. 各集計表の脚注に、有効回答数(n)を参考値として表示している。なお、設問によって有効回答数が異なることから、各集計表におけるnは必ずしも一致しない。
9. 表中の記号は次のように使う。
「-」： 計数が無い場合
「0.0」： 計数が単位未満の場合
「…」： 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合
10. 本文中で使用する表(A表、B表…)と集計表(A-1表、B-1表…)のアルファベットは、内容が関連するものではない。

1. 学生生活費

(1) 年間学生生活費（A表）

年間の学生生活費は、次のようになっている。

①大学（昼間部）等

平成28年度調査（以下「前回調査」という。）と比較すると、大学（昼間部）で1.6ポイント増、大学（夜間部）で7.1ポイント減、短期大学（昼間部）で2.5ポイント増、短期大学（夜間部）で3.3ポイント減となっており、大学（昼間部）・短期大学（昼間部）は増加し、大学（夜間部）・短期大学（夜間部）は減少している。

②大学院

前回調査と比較すると、修士課程で1.4ポイント増、博士課程で2.2ポイント増、専門職学位課程で1.9ポイント減となっている。

A表 年間学生生活費

[単位:円]

区分	大学		短期大学		大学院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程	
学 費	授業料	931,700	454,700	779,200	438,500	616,700	446,400	824,700
	その他の学校納付金	129,900	29,900	176,200	93,200	32,800	19,500	52,600
	修学費	46,200	34,800	49,200	30,400	49,000	115,200	93,100
	課外活動費	36,500	30,800	7,900	4,600	20,300	21,600	13,400
	通学費	64,500	65,500	77,300	59,800	57,900	66,900	68,200
	計	1,208,800	615,700	1,089,800	626,500	776,700	669,600	1,052,000
生 活 費	食費	178,700	184,100	115,600	138,000	279,700	408,300	309,700
	住居・光熱費	188,500	170,700	102,900	139,100	332,900	465,000	300,700
	保健衛生費	38,700	38,800	38,800	34,300	44,500	73,500	60,900
	娯楽・嗜好費	151,500	157,200	127,800	121,100	158,200	239,400	191,100
	その他の日常費	147,300	232,200	152,700	193,400	196,800	444,100	372,800
	計	704,700	783,000	537,800	625,900	1,012,100	1,630,300	1,235,200
合 計	(1.6)	(△7.1)	(2.5)	(△3.3)	(1.4)	(2.2)	(△1.9)	
		1,913,500	1,398,700	1,627,600	1,252,400	1,788,800	2,299,900	2,287,200
参 考	平成28年度	1,884,200	1,504,900	1,587,300	1,295,200	1,763,500	2,250,700	2,331,600
	平成26年度	1,862,100	1,425,900	1,580,500	1,202,700	1,750,200	2,162,000	2,289,100
	平成24年度	1,880,100	1,377,500	1,651,800	1,157,800	1,735,700	2,120,300	2,194,300
	平成22年度	1,830,500	1,435,700	1,591,600	1,109,900	1,732,100	2,112,200	2,243,700

(注) ()は、平成28年度調査の金額を基準とした増減率である。

(2) 学生生活費の推移（B表、第1図）

①大学（昼間部）

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は1.3ポイント増、生活費は2.0ポイント増となっている。

②短期大学（昼間部）

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は概ね変化なく、生活費は8.0ポイント増となっている。

③大学院

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は修士課程で0.5ポイント増、博士課程で1.8ポイント減、専門職学位課程で3.2ポイント減となっており、生活費は修士課程で2.1ポイント増、博士課程で3.9ポイント増、専門職学位課程で0.8ポイント減となっている。

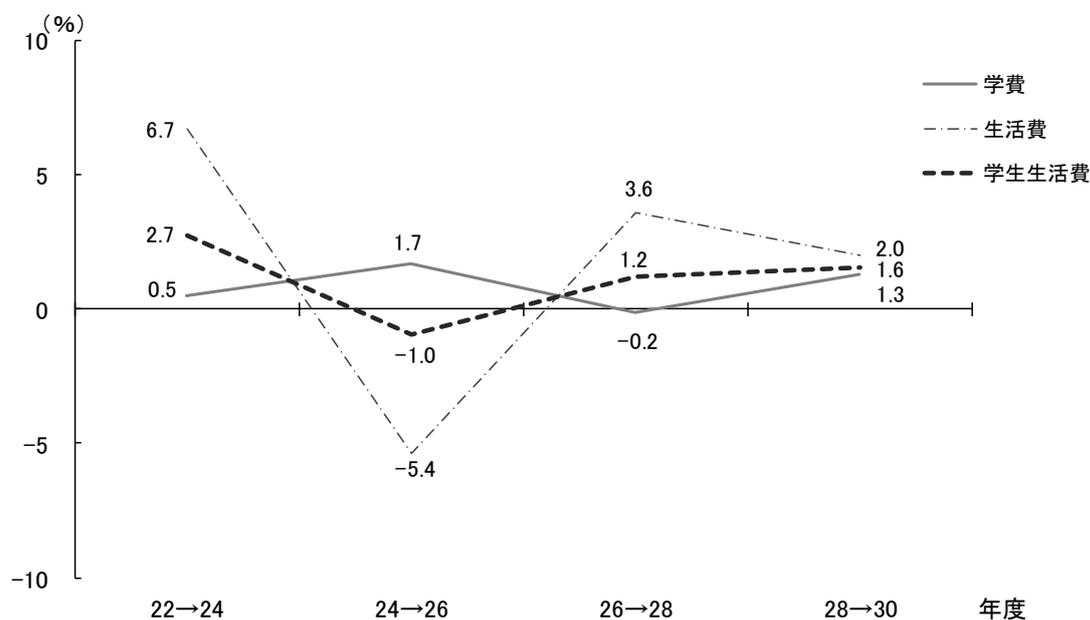
B表 学生生活費の推移

[単位:円]

区分		年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度	平成30年度	
大(屋 間 学 部)	学	授業料及びその他の学校納付金	(0.2)	(3.0)	(0.2)	(1.4)	
			1,013,700	1,044,600	1,046,500	1,061,600	
		修学費、課外活動費、通学費	(2.1)	(△6.9)	(△2.5)	(0.2)	
			161,800	150,700	146,900	147,200	
	費	計	(0.5)	(1.7)	(△0.2)	(1.3)	
			1,175,500	1,195,300	1,193,400	1,208,800	
生 活 費	生	食費、住居・光熱費	(△5.2)	(△0.8)	(2.2)	(0.7)	
			359,700	356,700	364,500	367,200	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(22.7)	(△10.1)	(5.2)	(3.4)	
			344,900	310,100	326,300	337,500	
	費	計	(6.7)	(△5.4)	(3.6)	(2.0)	
			704,600	666,800	690,800	704,700	
	合 計	(2.7)	(△1.0)	(1.2)	(1.6)		
		1,880,100	1,862,100	1,884,200	1,913,500		
短(屋 期 間 大 部 学)	学	授業料及びその他の学校納付金	(△2.3)	(3.0)	(△0.8)	(△0.2)	
			936,700	964,700	957,300	955,400	
		修学費、課外活動費、通学費	(0.1)	(△10.2)	(△5.2)	(1.8)	
			155,200	139,300	132,000	134,400	
	費	計	(△1.9)	(1.1)	(△1.3)	(0.0)	
			1,091,900	1,104,000	1,089,300	1,089,800	
生 活 費	生	食費、住居・光熱費	(7.4)	(△14.9)	(5.3)	(8.3)	
			225,100	191,600	201,800	218,500	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(24.7)	(△14.9)	(4.0)	(7.8)	
			334,800	284,900	296,200	319,300	
	費	計	(17.1)	(△14.9)	(4.5)	(8.0)	
			559,900	476,500	498,000	537,800	
	合 計	(3.8)	(△4.3)	(0.4)	(2.5)		
		1,651,800	1,580,500	1,587,300	1,627,600		
大 学 院	修 士 課 程	学	授業料及びその他の学校納付金	(△1.5)	(1.9)	(△0.5)	(0.6)
				636,700	648,900	645,800	649,500
			修学費、課外活動費、通学費	(△2.9)	(△13.1)	(△3.7)	(0.4)
				151,400	131,500	126,700	127,200
		費	計	(△1.8)	(△1.0)	(△1.0)	(0.5)
				788,100	780,400	772,500	776,700
生 活 費	生	食費、住居・光熱費	(△7.5)	(6.4)	(2.5)	(0.6)	
			558,100	593,900	608,800	612,600	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(19.3)	(△3.5)	(1.7)	(4.5)	
			389,500	375,900	382,200	399,500	
	費	計	(1.9)	(2.3)	(2.2)	(2.1)	
			947,600	969,800	991,000	1,012,100	
	合 計	(0.2)	(0.8)	(0.8)	(1.4)		
		1,735,700	1,750,200	1,763,500	1,788,800		
博 士 課 程	学	授業料及びその他の学校納付金	(△5.4)	(2.1)	(△2.8)	(△1.9)	
			478,600	488,600	475,000	465,900	
		修学費、課外活動費、通学費	(△13.4)	(△9.8)	(△5.1)	(△1.6)	
			242,000	218,300	207,100	203,700	
	費	計	(△8.2)	(△1.9)	(△3.5)	(△1.8)	
			720,600	706,900	682,100	669,600	
生 活 費	生	食費、住居・光熱費	(△7.2)	(5.1)	(6.1)	(2.1)	
			767,200	806,400	855,500	873,300	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(26.4)	(2.6)	(9.9)	(6.2)	
			632,500	648,700	713,100	757,000	
	費	計	(5.5)	(4.0)	(7.8)	(3.9)	
			1,399,700	1,455,100	1,568,600	1,630,300	
	合 計	(0.4)	(2.0)	(4.1)	(2.2)		
		2,120,300	2,162,000	2,250,700	2,299,900		
専 門 職 学 位 課 程	学	授業料及びその他の学校納付金	(△5.3)	(1.0)	(△7.3)	(△2.6)	
			962,400	972,500	901,100	877,300	
		修学費、課外活動費、通学費	(△9.4)	(△5.5)	(△4.9)	(△5.8)	
			206,200	194,900	185,400	174,700	
	費	計	(△6.0)	(△0.1)	(△6.9)	(△3.2)	
			1,168,600	1,167,400	1,086,500	1,052,000	
生 活 費	生	食費、住居・光熱費	(△5.9)	(3.8)	(6.9)	(△4.7)	
			576,800	598,900	640,400	610,400	
	活	日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(15.9)	(16.5)	(15.7)	(3.3)	
			448,900	522,800	604,700	624,800	
	費	計	(2.6)	(9.4)	(11.0)	(△0.8)	
			1,025,700	1,121,700	1,245,100	1,235,200	
	合 計	(△2.2)	(4.3)	(1.9)	(△1.9)		
		2,194,300	2,289,100	2,331,600	2,287,200		
家 計 消 費 支 出 指 数 (年 度)			(0.0)	(0.2)	(△2.5)	(2.8)	
			100.0	100.2	97.7	100.5	
消 費 者 物 価 指 数 (年 度)			(△0.3)	(3.9)	(0.2)	(1.4)	
			99.7	103.5	103.7	105.2	

- (注) 1. ()は、それぞれ前回調査からの増減率である。
 2. 家計消費支出指数及び消費者物価指数について、平成22年度の指数を100とする。
 3. 家計消費支出指数及び消費者物価指数は、総務省家計調査の結果等より算出。

第1図 学生生活費の増減率の推移（大学(昼間部)）



(3) 設置者別の学生生活費（C表）

①大学（昼間部）

学費と生活費を合わせた学生生活費の合計では、私立が国立より約51万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。生活費については、国立が私立よりも高くなっているが、その差の主な要因は食費と住居・光熱費となっており、自宅以外の学生の割合が高いためと考えられる。

②短期大学（昼間部）

学生生活費の合計では、私立が公立より約55万円高くなっており、これは学費の差によるところが大きい。

③大学院

学生生活費の合計では、私立が国立より修士課程は約34万円、博士課程は約30万円、専門職学位課程は約84万円高くなっており、いずれも学費の差によるところが大きい。

C表 設置者別の学生生活費

[単位：円]

区 分		学 費			生 活 費			合 計	
		授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計		
大学 (昼間部)	国立	497,900	139,800	637,700	553,600	331,900	885,500	1,523,200	
	公立	538,000	128,700	666,700	428,000	340,000	768,000	1,434,700	
	私立	1,223,800	150,100	1,373,900	321,100	338,600	659,700	2,033,600	
	平均	1,061,600	147,200	1,208,800	367,200	337,500	704,700	1,913,500	
短期大学 (昼間部)	国立	
	公立	418,400	92,000	510,400	319,800	279,600	599,400	1,109,800	
	私立	985,100	136,800	1,121,900	212,900	321,500	534,400	1,656,300	
	平均	955,400	134,400	1,089,800	218,500	319,300	537,800	1,627,600	
大 学 院	修士課程	国立	488,800	112,300	601,100	691,700	387,800	1,079,500	1,680,600
		公立	528,400	143,700	672,100	516,800	405,400	922,200	1,594,300
		私立	968,700	151,600	1,120,300	484,400	420,000	904,400	2,024,700
		平均	649,500	127,200	776,700	612,600	399,500	1,012,100	1,788,800
	博士課程	国立	391,600	186,500	578,100	906,800	720,300	1,627,100	2,205,200
		公立	476,600	248,300	724,900	795,700	1,029,100	1,824,800	2,549,700
		私立	663,700	241,500	905,200	798,000	802,600	1,600,600	2,505,800
		平均	465,900	203,700	669,600	873,300	757,000	1,630,300	2,299,900
	専門職 学位課程	国立	541,400	159,100	700,500	621,800	480,700	1,102,500	1,803,000
		公立	557,300	224,400	781,700	645,600	1,112,200	1,757,800	2,539,500
		私立	1,150,000	183,500	1,333,500	599,700	705,400	1,305,100	2,638,600
		平均	877,300	174,700	1,052,000	610,400	624,800	1,235,200	2,287,200

(4) 居住形態別の学生数の割合 (D表)

居住形態別学生数の割合は、大学（昼間部）の平均では、自宅に居住して通学する者（以下「自宅」という。）が58.2%、学寮に居住する者（以下「学寮」という。）が6.0%、下宿、アパート等に居住する者（以下「アパート等」という。）が35.7%となっており、自宅の割合が最も高くなっている。

短期大学（昼間部）の平均では、自宅73.9%、学寮6.4%、アパート等19.7%と自宅の割合が最も高く、全ての学校区分の中でも、その割合は最も高くなっている。

大学院については、修士課程の平均で自宅44.8%、学寮3.0%、アパート等52.2%、博士課程の平均で自宅51.2%、学寮2.5%、アパート等46.3%、専門職学位課程の平均で自宅64.0%、学寮3.6%、アパート等32.4%となっている。

さらに設置者別に見てみると、いずれの学校区分でも、私立は自宅の割合が高くなっている。また、専門職学位課程を除くいずれの学校区分でも、国公立、特に国立ではアパート等の割合が高い傾向となっている。

D 表 居住形態別学生数の割合

[単位：％]

区分		自宅	学寮	アパート等	計	
大学 (昼間部)	国立	33.8	6.5	59.7	100.0	
	公立	43.8	2.9	53.3	100.0	
	私立	64.5	6.1	29.4	100.0	
	平均	58.2	6.0	35.7	100.0	
短期大学 (昼間部)	国立	
	公立	47.4	7.0	45.6	100.0	
	私立	75.3	6.4	18.3	100.0	
	平均	73.9	6.4	19.7	100.0	
大 学 院	修士課程	国立	33.3	3.7	63.0	100.0
		公立	53.4	3.4	43.2	100.0
		私立	62.8	1.6	35.6	100.0
		平均	44.8	3.0	52.2	100.0
	博士課程	国立	46.0	3.0	51.0	100.0
		公立	64.8	1.5	33.7	100.0
		私立	61.5	1.5	37.0	100.0
		平均	51.2	2.5	46.3	100.0
	専門職 学位課程	国立	54.0	5.6	40.4	100.0
		公立	75.9	3.3	20.8	100.0
		私立	69.9	2.3	27.8	100.0
		平均	64.0	3.6	32.4	100.0

(5) 居住形態別の学生生活費 (E表、第2図)

①大学 (昼間部)

居住形態別の学生生活費は、国・公・私立いずれもアパート等が最も高く、国立の自宅を基準とした場合の1.50～2.22倍となっており、自宅との差額は、それぞれ国立約64万円、公立約55万円、私立約68万円となっている。学寮は、国・公・私立いずれも自宅とアパート等の中間にあつて、国立の自宅を基準とした場合の1.23～1.93倍となっている。

自宅と学寮・アパート等の学生生活費の差は、主として食費及び住居・光熱費による差が大きく、これを大学(昼間部)の平均を例にとりて月額で示したものが第2図である。また、学寮とアパート等の差についても、住居・光熱費による差が大きく、学寮と比較すると、アパート等で月額約1.3万円高くなっている。

②短期大学 (昼間部)

居住形態別の学生生活費は、公・私立いずれもアパート等が高く、公立の自宅を基準とした場合の1.50～2.32倍となっており、自宅との差額は、それぞれ公立約45万円、私立約55万円となっている。

③大学院

居住形態別の学生生活費は、すべての課程において、国・公・私立いずれもアパート等が最も高くなっている。

国立の自宅と私立のアパート等の差は、修士課程で1.96倍、博士課程で1.50倍、専門職学位課程で2.00倍となっている。

E表 居住形態別学生生活費

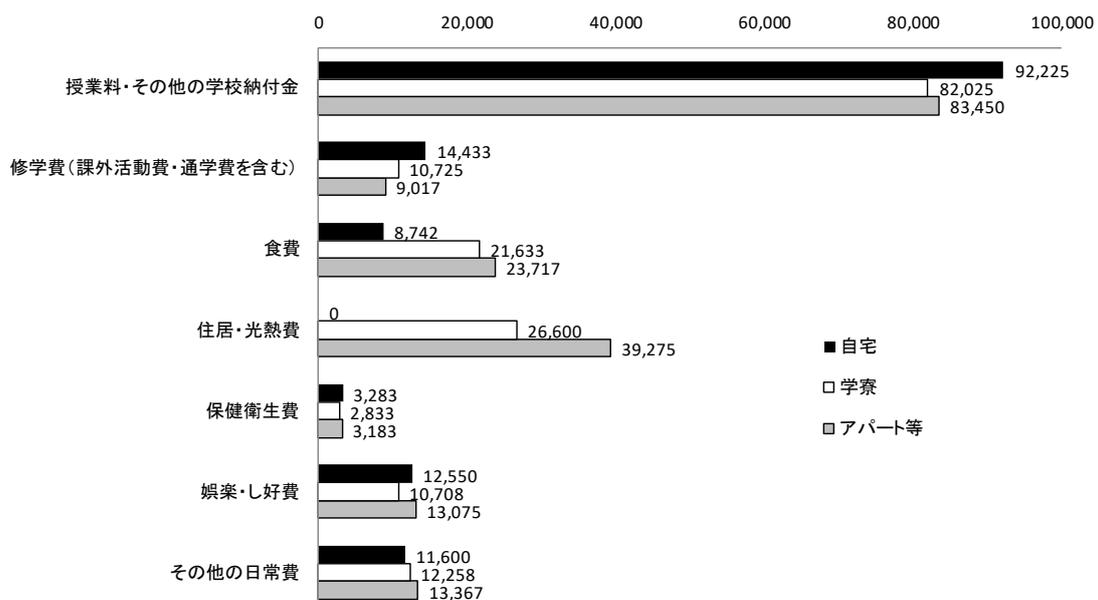
[単位：円]

区 分		自 宅	学 寮	アパ-ト等	
大学 (昼間部)	国立	1,122,300 (1.00)	1,381,100 (1.23)	1,765,800 (1.57)	
	公立	1,130,300 (1.01)	1,489,700 (1.33)	1,681,900 (1.50)	
	私立	1,810,800 (1.61)	2,166,200 (1.93)	2,495,300 (2.22)	
	平均	1,714,000	2,001,400	2,221,000	
短期大学 (昼間部)	国立	***	***	***	
	公立	895,200 (1.00)	1,058,500 (1.18)	1,340,900 (1.50)	
	私立	1,531,400 (1.71)	1,917,700 (2.14)	2,079,100 (2.32)	
	平均	1,509,900	1,868,500	1,989,700	
大 学 院	修士課程	国立	1,238,700 (1.00)	1,489,300 (1.20)	1,899,200 (1.53)
		公立	1,290,700 (1.04)	1,441,500 (1.16)	1,907,600 (1.54)
		私立	1,759,200 (1.42)	2,198,000 (1.77)	2,424,800 (1.96)
		平均	1,489,900	1,616,200	2,020,400
	博士課程	国立	1,884,000 (1.00)	1,685,100 (0.89)	2,369,200 (1.26)
		公立	2,262,400 (1.20)	1,514,000 (0.80)	2,841,900 (1.51)
		私立	2,163,600 (1.15)	2,494,100 (1.32)	2,833,100 (1.50)
		平均	2,010,500	1,789,100	2,485,000
	専門職 学位課程	国立	1,469,300 (1.00)	1,585,800 (1.08)	2,100,200 (1.43)
		公立	2,389,600 (1.63)	1,923,100 (1.31)	2,854,800 (1.94)
		私立	2,455,900 (1.67)	2,197,900 (1.50)	2,944,900 (2.00)
		平均	2,115,300	1,841,300	2,532,400

※ ()は、国立(短期大学では公立)の自宅を基準(1.00)とした場合の比率である。

第2図 居住形態別学生生活費の支出状況(月額) [大学(昼間部)平均]

[単位：円]



(注) 自宅生は住居・光熱費のデータなし。

(6) 地域別・居住形態別学生生活費 (F表、第3図)

大学(昼間部)について学生生活費を地域別に比較すると、国公私立平均では、「東京圏^(注1)」が最も高く、「京阪神^(注1)」、「その他」の順となっている。設置者別・居住形態別に見てみると、最も高いのは私立「東京圏」のアパート等で約260.1万円となっている。

短期大学(昼間部)についても、国公私立平均では、「東京圏」が最も高く、設置者別・居住形態別に見てみると、最も高いのは私立「東京圏」のアパート等で約229.9万円となっている。

大学院のうち修士課程、専門職学位課程については、国公私立平均では、「東京圏」が最も高くなっているが、博士課程における国公私立平均では地域別による大きな差は見られない。

F表 地域別・居住形態別学生生活費

区 分		東京圏			京阪神			その他			全国平均				
		学費	生活費	合計											
大学 (昼間部)	国公私立平均	1,369,400	706,000	2,075,400	1,239,400	667,000	1,906,400	1,064,700	715,600	1,780,300	1,208,800	704,700	1,913,500		
	国立	自宅	732,200	436,100	1,168,300	717,400	461,200	1,178,600	688,000	412,300	1,100,300	699,200	423,100	1,122,300	
		学寮	609,500	1,123,500	1,733,000	580,400	883,800	1,464,200	516,600	790,400	1,307,000	535,700	845,400	1,381,100	
		アパート等	624,600	1,409,600	2,034,200	630,400	1,245,600	1,876,000	610,900	1,115,400	1,726,300	614,000	1,151,800	1,765,800	
		平均	675,200	916,800	1,592,000	664,700	889,700	1,554,400	628,400	880,500	1,508,900	637,700	885,500	1,523,200	
	公立	自宅	744,700	443,700	1,188,400	730,800	436,300	1,167,100	704,600	412,800	1,117,400	711,600	418,700	1,130,300	
		学寮	701,700	1,306,600	2,008,300	655,000	819,200	1,474,200	671,700	804,100	1,475,800	670,400	819,300	1,489,700	
		アパート等	652,100	1,259,600	1,911,700	649,600	1,155,600	1,805,200	626,900	1,034,700	1,661,600	629,600	1,052,300	1,681,900	
		平均	712,400	735,000	1,447,400	696,900	727,800	1,424,700	659,800	775,600	1,435,400	666,700	768,000	1,434,700	
	私立	自宅	1,415,900	461,200	1,877,100	1,398,200	423,500	1,821,700	1,305,200	407,100	1,712,300	1,374,600	436,200	1,810,800	
		学寮	1,300,200	1,032,200	2,332,400	1,066,700	772,500	1,839,200	1,281,500	793,900	2,075,400	1,265,300	900,900	2,166,200	
		アパート等	1,421,400	1,180,000	2,601,400	1,312,700	1,116,500	2,429,200	1,395,100	1,007,100	2,402,200	1,394,900	1,100,400	2,495,300	
平均		1,410,700	694,900	2,105,600	1,360,100	627,200	1,987,300	1,332,600	628,800	1,961,400	1,373,900	659,700	2,033,600		
短期大学 (昼間部)	国公私立平均	1,198,200	573,800	1,772,000	1,200,200	528,300	1,728,500	1,026,000	526,400	1,552,400	1,089,800	537,800	1,627,600		
	公立	自宅	556,700	383,300	940,000	-	-	-	555,300	336,500	891,800	555,500	339,700	895,200	
		アパート等	524,700	1,240,300	1,765,000	-	-	-	472,100	854,500	1,326,600	473,800	867,100	1,340,900	
	私立	自宅	1,212,200	429,300	1,641,500	1,236,500	403,100	1,639,600	1,088,100	368,300	1,456,400	1,142,200	389,200	1,531,400	
アパート等		1,185,200	1,114,200	2,299,400	1,129,100	1,064,600	2,193,700	1,023,500	968,100	1,991,600	1,069,400	1,009,700	2,079,100		
大 学 院	国公私立平均	991,600	969,300	1,960,900	721,600	1,038,000	1,759,600	653,300	1,031,000	1,684,300	776,700	1,012,100	1,788,800		
	修士課程	国立	自宅	692,100	600,800	1,292,900	671,500	606,400	1,277,900	664,200	531,800	1,196,000	672,900	565,800	1,238,700
		アパート等	590,200	1,505,000	2,095,200	595,600	1,392,400	1,988,000	564,300	1,267,700	1,832,000	574,300	1,324,900	1,899,200	
		公立	自宅	686,300	517,200	1,203,500	736,200	555,000	1,291,200	719,200	585,900	1,305,100	722,600	568,100	1,290,700
		アパート等	635,100	1,426,300	2,061,400	631,400	1,264,000	1,895,400	626,100	1,274,300	1,900,400	627,800	1,279,800	1,907,600	
	博士課程	国立	自宅	1,223,900	611,100	1,835,000	1,053,000	540,800	1,593,800	1,033,500	562,900	1,596,400	1,166,100	593,100	1,759,200
		アパート等	1,093,700	1,427,500	2,521,200	1,051,400	1,344,000	2,395,400	953,500	1,259,500	2,213,000	1,051,700	1,373,100	2,424,800	
		公立	自宅	756,100	1,563,700	2,319,800	588,200	1,630,000	2,218,200	641,700	1,679,400	2,321,100	669,600	1,630,300	2,299,900
		アパート等	680,800	1,048,500	1,729,300	702,000	964,200	1,666,200	698,500	1,365,300	2,063,800	693,700	1,190,300	1,884,000	
	専門職学位課程	国立	自宅	790,000	1,507,100	2,297,100	800,600	1,368,900	2,169,500	772,600	1,523,300	2,295,900	782,700	1,479,700	2,262,400
		アパート等	521,900	1,958,300	2,480,200	725,900	1,921,200	2,647,100	707,000	2,253,200	2,960,200	691,800	2,150,100	2,841,900	
		公立	自宅	960,300	1,195,200	2,155,500	925,400	1,038,000	1,963,400	1,026,500	1,340,100	2,366,600	966,300	1,197,300	2,163,600
アパート等		854,500	1,970,400	2,824,900	725,200	1,941,700	2,666,900	901,700	2,042,100	2,943,800	848,900	1,984,200	2,833,100		
国公私立平均	1,248,700	1,337,300	2,586,000	999,600	1,103,000	2,102,600	830,600	1,209,000	2,039,600	1,052,000	1,235,200	2,287,200			
専 門 職 学 位 課 程	国立	自宅	798,900	597,800	1,396,700	733,000	636,400	1,369,400	734,300	804,400	1,538,700	747,500	721,800	1,469,300	
	アパート等	746,400	1,549,700	2,296,100	758,800	1,417,200	2,176,000	625,500	1,370,200	1,995,700	689,700	1,410,500	2,100,200		
	公立	自宅	881,900	1,569,400	2,451,300	825,400	1,009,600	1,835,000	604,300	2,422,500	3,026,800	817,900	1,571,700	2,389,600	
	アパート等	678,400	1,825,800	2,504,200	818,200	1,916,900	2,735,100	741,800	3,121,600	3,863,400	732,400	2,122,400	2,854,800		
私立	自宅	1,417,500	1,155,100	2,572,600	1,281,900	841,500	2,123,400	1,340,900	1,197,900	2,538,800	1,372,400	1,083,500	2,455,900		
	アパート等	1,324,300	1,750,900	3,075,200	1,206,600	1,363,600	2,570,200	1,322,000	1,688,800	3,010,800	1,295,800	1,649,100	2,944,900		

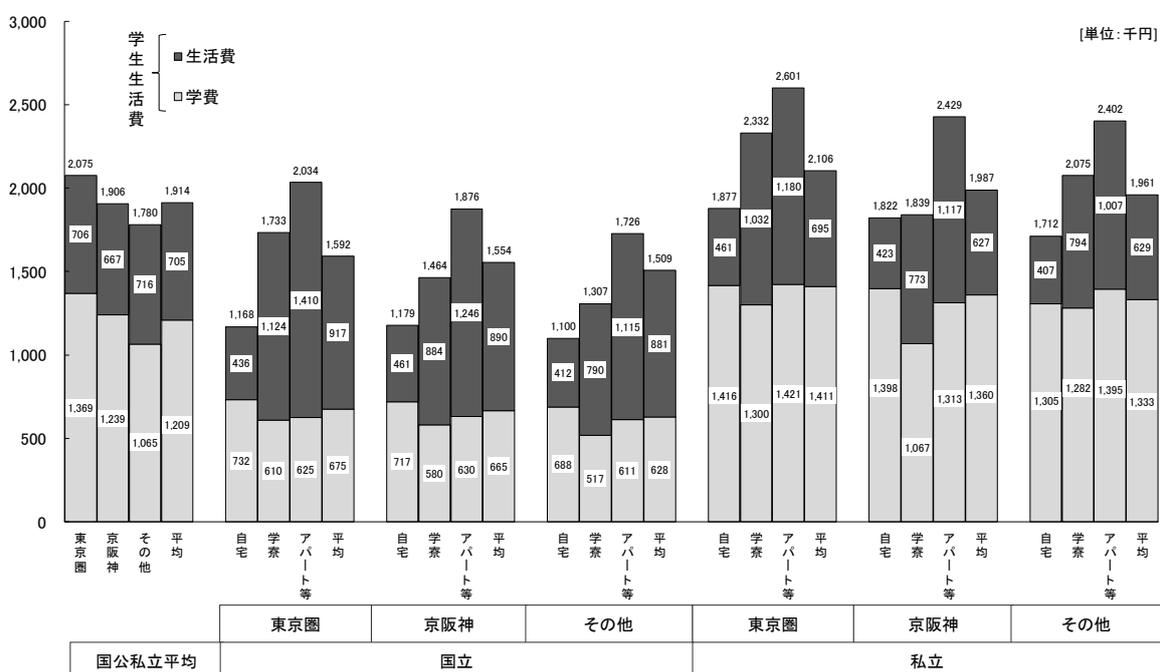
(注1)「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

(注2) 短期大学(昼間部)、大学院の各課程の学寮については、ページの都合で省略した。

(注3) 大学院は、「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

第3図 地域別・居住形態別学生生活費(大学昼間部)



※公立大学の結果は「B-1表 居住形態別・地域別学生生活費の内訳」参照。

(7) 男女別・居住形態別学生生活費 (G表)

大学（昼間部）について居住形態別の学生生活費を男女別に比較すると、国立の学寮を除き男子より女子のほうが学生生活費は高くなっている。（このうち、アパート等の生活費では、国立では男子より約7.4万円高く、私立では男子より約4.9万円高くなっている。）

短期大学（昼間部）については、私立のアパート等を除き男子より女子のほうが学生生活費は高くなっている。

大学院についても、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）と同様に男子より女子のほうが学生生活費は高い傾向となっているが、修士課程、博士課程の私立の学寮では、女子より男子の学生生活費が高くなっている。

G表 男女別・居住形態別学生生活費

[単位:円]

区分			学 費			生 活 費			合 計	
			授業料 学校納付金 (割合)	修学費 課外活動費 通学費 (割合)	小 計	食 費 住居・光熱費 (割合)	保健衛生費 娯楽嗜好費 その他の日常費 (割合)	小 計		
大学 (昼間部)	立	男	自宅 学寮	505,000 (45.3%)	187,000 (16.8%)	692,000	121,500 (10.9%)	300,100 (26.9%)	421,600	1,113,600
		アパート等	428,400 (30.6%)	127,300 (9.1%)	555,700	553,400 (39.5%)	292,400 (20.9%)	845,800	1,401,500	
		女	自宅 学寮	500,200 (28.8%)	109,800 (6.3%)	610,000	800,700 (46.1%)	327,600 (18.8%)	1,128,300	1,738,300
		アパート等	509,900 (45.0%)	197,300 (17.4%)	707,200	100,300 (8.9%)	324,700 (28.7%)	425,000	1,132,200	
		女	自宅 学寮	392,700 (29.2%)	109,600 (8.1%)	502,300	506,500 (37.6%)	338,000 (25.1%)	844,500	1,346,800
		アパート等	504,100 (27.8%)	116,600 (6.4%)	620,700	814,700 (45.0%)	376,700 (20.8%)	1,191,400	1,812,100	
	私	男	自宅 学寮	1,190,600 (66.6%)	165,700 (9.3%)	1,356,300	113,400 (6.3%)	317,500 (17.8%)	430,900	1,787,200
		アパート等	1,031,800 (51.2%)	148,500 (7.4%)	1,180,300	552,500 (27.4%)	281,100 (14.0%)	833,600	2,013,900	
		女	自宅 学寮	1,315,300 (53.2%)	107,000 (4.3%)	1,422,300	712,600 (28.8%)	337,500 (13.7%)	1,050,100	2,472,400
		アパート等	1,215,000 (66.4%)	175,200 (9.6%)	1,390,200	97,400 (5.3%)	343,200 (18.7%)	440,600	1,830,800	
		女	自宅 学寮	1,271,100 (53.6%)	108,800 (4.6%)	1,379,900	644,500 (27.2%)	347,300 (14.6%)	991,800	2,371,700
		アパート等	1,252,500 (49.7%)	110,300 (4.4%)	1,362,800	771,700 (30.6%)	387,300 (15.4%)	1,159,000	2,521,800	
短期大学 (昼間部)	公	男	自宅 学寮	439,700 (50.8%)	111,800 (12.9%)	551,500	63,700 (7.4%)	250,000 (28.9%)	313,700	865,200
		アパート等	389,500 (52.7%)	1,000 (0.1%)	390,500	319,500 (43.2%)	29,500 (4.0%)	349,000	739,500	
		女	自宅 学寮	390,100 (32.1%)	44,700 (3.7%)	434,800	550,600 (45.3%)	229,000 (18.9%)	779,600	1,214,400
		アパート等	417,700 (46.5%)	138,100 (15.4%)	555,800	62,000 (6.9%)	280,100 (31.2%)	342,100	897,900	
		女	自宅 学寮	398,000 (37.4%)	46,800 (4.4%)	444,800	344,600 (32.4%)	275,100 (25.8%)	619,700	1,064,500
		アパート等	425,200 (31.2%)	55,100 (4.0%)	480,300	589,200 (43.3%)	292,400 (21.5%)	881,600	1,361,900	
	私	男	自宅 学寮	971,000 (65.5%)	150,600 (10.2%)	1,121,600	84,600 (5.7%)	275,900 (18.6%)	360,500	1,482,100
		アパート等	1,047,300 (54.9%)	63,300 (3.3%)	1,110,600	528,800 (27.7%)	267,700 (14.0%)	796,500	1,907,100	
		女	自宅 学寮	999,300 (48.0%)	72,300 (3.5%)	1,071,600	641,700 (30.9%)	366,700 (17.6%)	1,008,400	2,080,000
		アパート等	988,600 (64.4%)	155,400 (10.1%)	1,144,000	75,700 (4.9%)	315,800 (20.6%)	391,500	1,535,500	
		女	自宅 学寮	949,600 (49.5%)	74,800 (3.9%)	1,024,400	520,800 (27.1%)	373,500 (19.5%)	894,300	1,918,700
		アパート等	983,100 (47.3%)	85,900 (4.1%)	1,069,000	670,900 (32.3%)	339,000 (16.3%)	1,009,900	2,078,900	
大学院 修士課程	国	男	自宅 学寮	495,500 (41.7%)	167,900 (14.1%)	663,400	163,200 (13.7%)	360,400 (30.4%)	523,600	1,187,000
		アパート等	376,000 (25.6%)	82,700 (5.6%)	458,700	626,600 (42.7%)	382,900 (26.1%)	1,009,500	1,468,200	
		女	自宅 学寮	494,400 (26.2%)	79,300 (4.2%)	573,700	946,600 (50.1%)	369,900 (19.6%)	1,316,500	1,890,200
		アパート等	502,700 (36.9%)	193,300 (14.2%)	696,000	193,100 (14.2%)	474,300 (34.8%)	667,400	1,363,400	
		女	自宅 学寮	399,800 (26.2%)	118,300 (7.8%)	518,100	644,400 (42.3%)	362,600 (23.8%)	1,007,000	1,525,100
		アパート等	475,800 (24.6%)	100,600 (5.2%)	576,400	910,400 (47.1%)	447,600 (23.1%)	1,358,000	1,934,400	
	私	男	自宅 学寮	1,005,100 (57.7%)	171,400 (9.8%)	1,176,500	167,000 (9.6%)	397,300 (22.8%)	564,300	1,740,800
		アパート等	1,043,700 (45.8%)	87,200 (3.8%)	1,130,900	843,200 (37.0%)	303,500 (13.3%)	1,146,700	2,277,600	
		女	自宅 学寮	954,000 (40.3%)	96,000 (4.1%)	1,050,000	936,600 (39.6%)	380,800 (16.1%)	1,317,400	2,367,400
		アパート等	951,400 (53.0%)	194,800 (10.9%)	1,146,200	166,100 (9.3%)	481,300 (26.8%)	647,400	1,793,600	
		女	自宅 学寮	919,400 (44.2%)	69,200 (3.3%)	988,600	785,200 (37.8%)	304,300 (14.6%)	1,089,500	2,078,100
		アパート等	916,000 (36.3%)	138,600 (5.5%)	1,054,600	994,100 (39.4%)	474,600 (18.8%)	1,468,700	2,523,300	
大学院 博士課程	国	男	自宅 学寮	439,200 (23.6%)	240,400 (12.9%)	679,600	314,800 (16.9%)	870,000 (46.7%)	1,184,800	1,864,400
		アパート等	283,000 (17.7%)	207,700 (13.0%)	490,700	706,800 (44.1%)	404,300 (25.2%)	1,111,100	1,601,800	
		女	自宅 学寮	371,400 (16.3%)	149,200 (6.6%)	520,600	1,148,300 (50.4%)	607,900 (26.7%)	1,756,200	2,276,800
		アパート等	439,100 (22.8%)	285,700 (14.8%)	724,800	259,800 (13.5%)	942,400 (48.9%)	1,202,200	1,927,000	
		女	自宅 学寮	368,700 (18.9%)	213,200 (11.0%)	581,900	628,600 (32.3%)	736,500 (37.8%)	1,365,100	1,947,000
		アパート等	396,400 (15.0%)	181,400 (6.8%)	577,800	1,235,000 (46.6%)	836,500 (31.6%)	2,071,500	2,649,300	
	私	男	自宅 学寮	670,200 (32.8%)	256,300 (12.5%)	926,500	359,500 (17.6%)	757,400 (37.1%)	1,116,900	2,043,400
		アパート等	680,000 (26.0%)	163,400 (6.3%)	843,400	826,600 (31.6%)	943,700 (36.1%)	1,770,300	2,613,700	
		女	自宅 学寮	642,400 (22.8%)	214,500 (7.6%)	856,900	1,243,100 (44.2%)	712,900 (25.3%)	1,956,000	2,812,900
		アパート等	696,500 (29.9%)	323,400 (13.9%)	1,019,900	300,500 (12.9%)	1,005,700 (43.2%)	1,306,200	2,326,100	
		女	自宅 学寮	727,900 (34.4%)	117,000 (5.5%)	844,900	750,200 (35.4%)	522,800 (24.7%)	1,273,000	2,117,900
		アパート等	651,600 (22.7%)	182,900 (6.4%)	834,500	1,236,300 (43.1%)	798,800 (27.8%)	2,035,100	2,869,600	
大学院 専門 職学位課程	国	男	自宅 学寮	556,300 (39.7%)	188,500 (13.5%)	744,800	177,300 (12.7%)	479,300 (34.2%)	656,600	1,401,400
		アパート等	328,800 (23.8%)	105,000 (7.6%)	433,800	530,700 (38.4%)	417,300 (30.2%)	948,000	1,381,800	
		女	自宅 学寮	547,900 (26.6%)	134,000 (6.5%)	681,900	990,200 (48.0%)	391,100 (19.0%)	1,381,300	2,063,200
		アパート等	439,100 (22.8%)	285,700 (14.8%)	724,800	259,800 (13.5%)	942,400 (48.9%)	1,202,200	1,927,000	
		女	自宅 学寮	368,700 (18.9%)	213,200 (11.0%)	581,900	628,600 (32.3%)	736,500 (37.8%)	1,365,100	1,947,000
		アパート等	396,400 (15.0%)	181,400 (6.8%)	577,800	1,235,000 (46.6%)	836,500 (31.6%)	2,071,500	2,649,300	
	私	男	自宅 学寮	670,200 (32.8%)	256,300 (12.5%)	926,500	359,500 (17.6%)	757,400 (37.1%)	1,116,900	2,043,400
		アパート等	680,000 (26.0%)	163,400 (6.3%)	843,400	826,600 (31.6%)	943,700 (36.1%)	1,770,300	2,613,700	
		女	自宅 学寮	642,400 (22.8%)	214,500 (7.6%)	856,900	1,243,100 (44.2%)	712,900 (25.3%)	1,956,000	2,812,900
		アパート等	696,500 (29.9%)	323,400 (13.9%)	1,019,900	300,500 (12.9%)	1,005,700 (43.2%)	1,306,200	2,326,100	
		女	自宅 学寮	727,900 (34.4%)	117,000 (5.5%)	844,900	750,200 (35.4%)	522,800 (24.7%)	1,273,000	2,117,900
		アパート等	651,600 (22.7%)	182,900 (6.4%)	834,500	1,236,300 (43.1%)	798,800 (27.8%)	2,035,100	2,869,600	

※大学昼間部、大学院の各課程の公立については、ページの都合で省略した。

(8) 学年別の学生生活費 (H表)

学年別の学生生活費については、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では、高学年になるにつれて学生生活費が高くなる傾向となっており、内訳を見ると、生活費が高学年になるにつれ高くなる傾向となっている。

また、大学（昼間部）では、1年次から4年次と比較して、5年次、6年次の学生生活費が特に高くなっているが、これは、5年次、6年次が医、歯、獣医、薬学部の学生であり、学費が高くなっているためである。

博士課程についても、高学年になるにつれて学生生活費が高くなる傾向となっている。なお、4年次は医・歯学等の4年制博士課程の学生であり、1年次から3年次と比較して、生活費が特に高くなっている。

H表 学年別の学生生活費

[単位:円]

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
大 学 部 （ 昼 間 部 ）	学 費	1,229,900	1,194,400	1,171,700	1,150,400	2,359,600	2,037,100	
	生活費	574,000	702,800	738,000	788,800	990,100	927,900	
	計	1,803,900	1,897,200	1,909,700	1,939,200	3,349,700	2,965,000	
短 期 大 学 （ 昼 間 部 ）	学 費	1,106,600	1,069,800	1,139,500	…	…	…	
	生活費	503,800	560,700	593,700	…	…	…	
	計	1,610,400	1,630,500	1,733,200	…	…	…	
大 学 院	修 士 課 程	学 費	793,100	761,300	…	…	…	…
		生活費	997,700	1,025,300	…	…	…	…
		計	1,790,800	1,786,600	…	…	…	…
	博 士 課 程	学 費	673,400	666,100	653,900	756,200	…	…
		生活費	1,448,300	1,649,900	1,667,000	2,333,700	…	…
		計	2,121,700	2,316,000	2,320,900	3,089,900	…	…
	学 位 課 程 専 門 職	学 費	1,082,300	1,016,500	1,078,400	…	…	…
		生活費	1,323,400	1,239,100	995,900	…	…	…
		計	2,405,700	2,255,600	2,074,300	…	…	…

2. 学生の収入の状況（I表、第4図）

学生生活費は、家庭からの給付、奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが、それぞれの学校区分において、その収入の状況には差異が見られる（I表、第4図参照）。

また、前回調査と収入の状況を比較したところ、すべての学校区分において、アルバイトの金額及び収入総額に占める割合がともに増加している一方、短期大学（昼間部）を除くすべての学校区分において、奨学金の金額及び収入総額に占める割合がともに減少している。

①大学（昼間部）

収入総額に対する割合では、家庭からの給付が最も高く59.8%となっているが、前回調査と比較すると0.3ポイント減となっている。

収入総額に対する割合を設置者別に見てみると、奨学金は、公立が国立・私立より3.0～3.3ポイント高く、アルバイトも公立が国立・私立より4.1～6.6ポイント高くなっている一方で、家庭からの給付は公立のほうが7.2～9.6ポイント低くなっている。収入総額は私立より公立のほうが約55.5万円低くなっているが、これは、家庭からの給付の差によるところが大きい。

また、収入総額に対する各収入の状況を男女別に見てみると、収入総額に対する割合では大きな差は見られないが、収入総額は男子より女子のほうが約3.7万円高くなっており、これも家庭からの給付の差によるところが大きい。

②短期大学（昼間部）

収入総額に対する割合では、家庭からの給付が最も高く52.0%となっているが、前回調査と比較すると2.8ポイント減となっている。また、大学（昼間部）の収入総額に対する割合と比較したところ、収入総額に占める奨学金の割合は大学（昼間部）より7.2ポイント高い一方、家庭からの給付は7.8ポイント低くなっている。

③大学院^(※)

修士課程の収入総額に対する割合では、家庭からの給付が最も高く48.7%となっているが、前回調査と比較すると0.4ポイント減となっている。一方で、博士課程及び専門職学位課程の収入総額に対する割合では、定職・その他が最も高く、それぞれ36.6%（博士課程）、44.7%（専門職学位課程）となっており、前回調査と比較すると4.2ポイント増（博士課程）、0.1ポイント減（専門職学位課程）となっている。

博士課程については、すべての学校区分の中で、収入総額に占める奨学金の割合、及びアルバイトの割合が最も高く、25.9%（奨学金）、24.9%（アルバイト）となっており、その一方で、収入総額に占める家庭からの給付の割合は、すべての学校区分の中で最も低く、12.6%となっている。

専門職学位課程については、すべての学校区分の中で、収入総額に占める定職・その他の割合が最も高く、44.7%となっており特に高い割合となっている。その一方で、収入総額に占める奨学金及びアルバイトの割合は、すべての学校区分の中で最も低く、それぞれ16.4%、6.0%となっている。

(※) 大学院については、「配偶者あり」と回答したものを除き集計していることや社会人学生が大学昼間部や短期大学昼間部に比べて多いこと等、資料の取扱いには留意を要する。

I表 収入及びその構成割合

[単位:円]

区 分		家庭からの給付	奨 学 金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大学 (昼間部)	国立	(58.1) 951,800	(17.6) 288,200	(21.9) 358,700	(2.4) 38,500	(100.0) 1,637,200
	公立	(50.9) 792,700	(20.9) 325,200	(26.0) 404,600	(2.3) 35,400	(100.0) 1,557,900
	私立	(60.5) 1,279,100	(17.9) 377,900	(19.4) 411,000	(2.1) 45,200	(100.0) 2,113,200
	男	(59.1) 1,172,300	(18.5) 367,800	(20.1) 397,600	(2.3) 45,100	(100.0) 1,982,800
	女	(60.5) 1,221,200	(17.4) 351,200	(20.1) 405,500	(2.1) 42,000	(100.0) 2,019,900
	平均	(59.8) 1,196,600	(18.0) 359,600	(20.1) 401,500	(2.2) 43,600	(100.0) 2,001,300
短期大学(昼間部)		(52.0) 893,100	(25.2) 433,200	(19.7) 338,800	(3.1) 52,700	(100.0) 1,717,800
大学院	修士課程	(48.7) 946,200	(21.3) 414,800	(17.5) 340,200	(12.5) 243,000	(100.0) 1,944,200
	博士課程	(12.6) 395,400	(25.9) 810,200	(24.9) 780,600	(36.6) 1,146,100	(100.0) 3,132,300
	専門職学位課程	(32.9) 899,100	(16.4) 450,000	(6.0) 163,300	(44.7) 1,223,600	(100.0) 2,736,000
	平均	(20.1) 601,500	(20.1) 601,500	(20.1) 601,500	(20.1) 601,500	(100.0) 2,406,000

(注) 1. ()は、収入総額に占める割合である。

2. 大学院の「アルバイト」には、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)を含む。

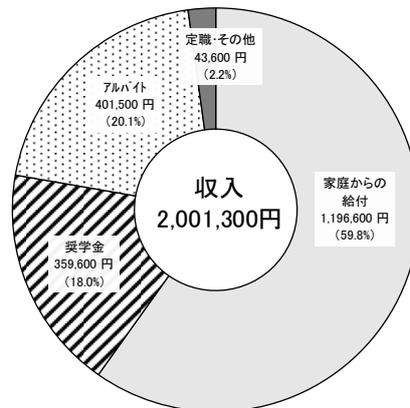
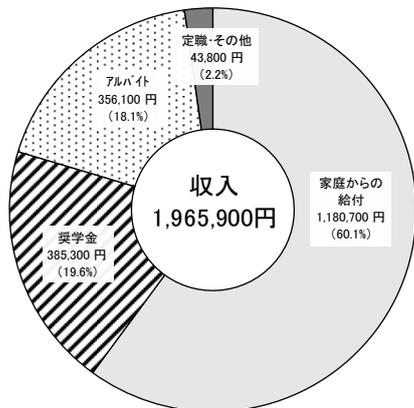
3. 大学院の「配偶者あり」と回答した者は、集計に含まない。

第4図 収入額内訳

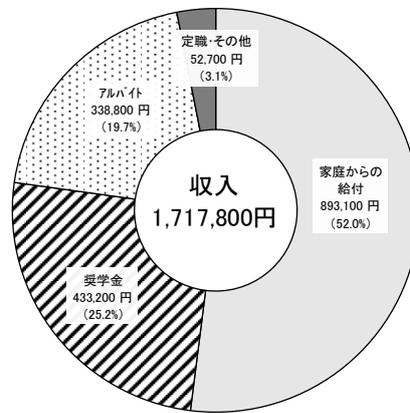
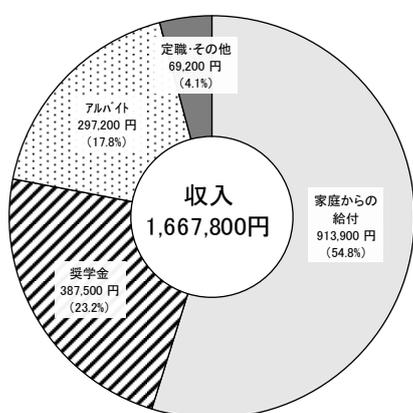
平成28年度

平成30年度

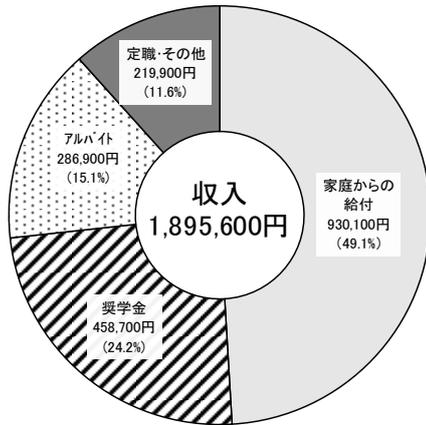
【大学(昼間部)】



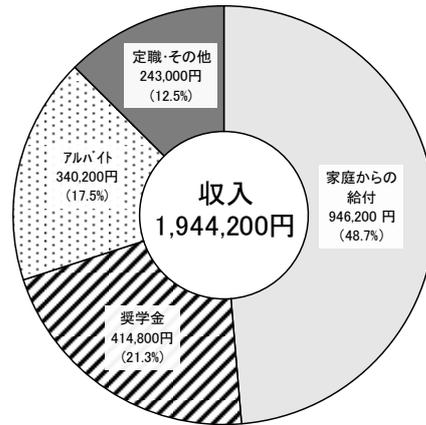
【短期大学(昼間部)】



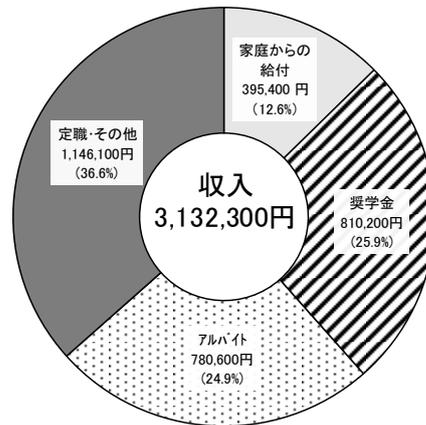
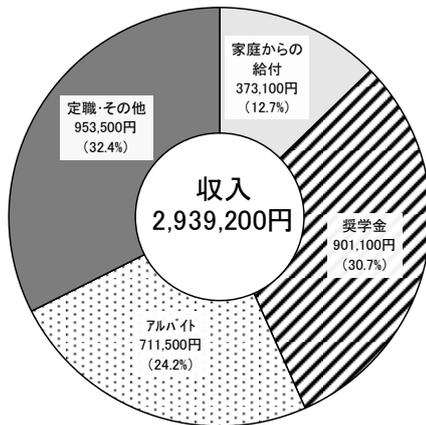
平成28年度
【大学院修士課程】



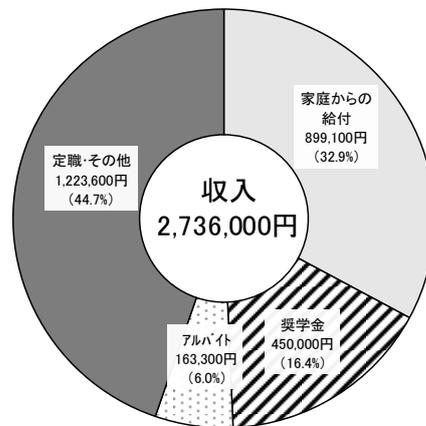
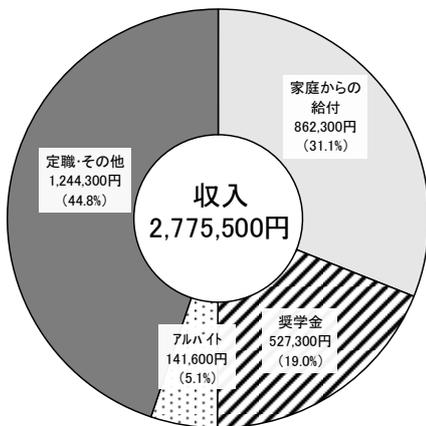
平成30年度



【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



3. 家庭からの給付額等

(1) 家庭からの給付 (J表)

家庭からの給付額について平成 22 年度以降で見ると、大学（昼間部）では減少が続いていたが、前回調査と比較すると約 1.6 万円の増加となっている。短期大学（昼間部）では減少が続いており、前回調査と比較すると約 2.1 万円減少している。

次に、学生生活費（支出額）を分母とした家庭からの給付の割合は、大学（昼間部）62.5%、短期大学（昼間部）54.9%、修士課程 52.9%、博士課程 17.2%、専門職学位課程 39.3%となっており、大学（昼間部）が 60%台である一方、博士課程及び専門職学位課程の割合は特に低くなっている。また、この割合を平成 22 年度以降で見ると、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では減少が続いており、前回調査と比較すると、それぞれ 0.2 ポイント減（大学（昼間部））、2.7 ポイント減（短期大学（昼間部））、さらに平成 22 年度と比較すると 4.6 ポイント減（大学（昼間部））、7.5 ポイント減（短期大学（昼間部））となっている。

J表 家庭からの給付額の推移

[単位:円]

区分		年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	平成28年度	平成30年度
大学 (昼間部)	家庭からの給付額		1,227,500	1,215,200	1,193,800	1,180,700	1,196,600
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		67.1 %	64.6 %	64.1 %	62.7 %	62.5 %
短期大学 (昼間部)	家庭からの給付額		993,100	989,900	931,300	913,900	893,100
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		62.4 %	59.9 %	58.9 %	57.6 %	54.9 %
大 学 院	修士課程	家庭からの給付額	932,100	873,500	914,800	930,100	946,200
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	53.8 %	50.3 %	52.3 %	52.7 %	52.9 %
	博士課程	家庭からの給付額	378,800	383,300	388,500	373,100	395,400
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	17.9 %	18.1 %	18.0 %	16.6 %	17.2 %
	専門職学位課程	家庭からの給付額	1,039,700	993,700	914,900	862,300	899,100
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	46.3 %	45.3 %	40.0 %	37.0 %	39.3 %

(2) 家庭の年間平均収入 (K表)

学生の家庭の年間平均収入を設置者別に見てみると、博士課程を除いて、公立の年間平均収入額が最も低くなっており、専門職学位課程を除いて、私立の年間平均収入額が最も高くなっている。

各学校区分での金額比較では、短期大学（昼間部）での年間平均収入額が最も低く 640 万円となっており、平成 22 年度以降で見ると、短期大学（昼間部）の最も低い状況が続いている。なお、大学院の集計では、「配偶者あり」と回答した者を含めないため、調査結果を利用する際は留意が必要である。

K表 家庭の年間平均収入

[単位：千円]

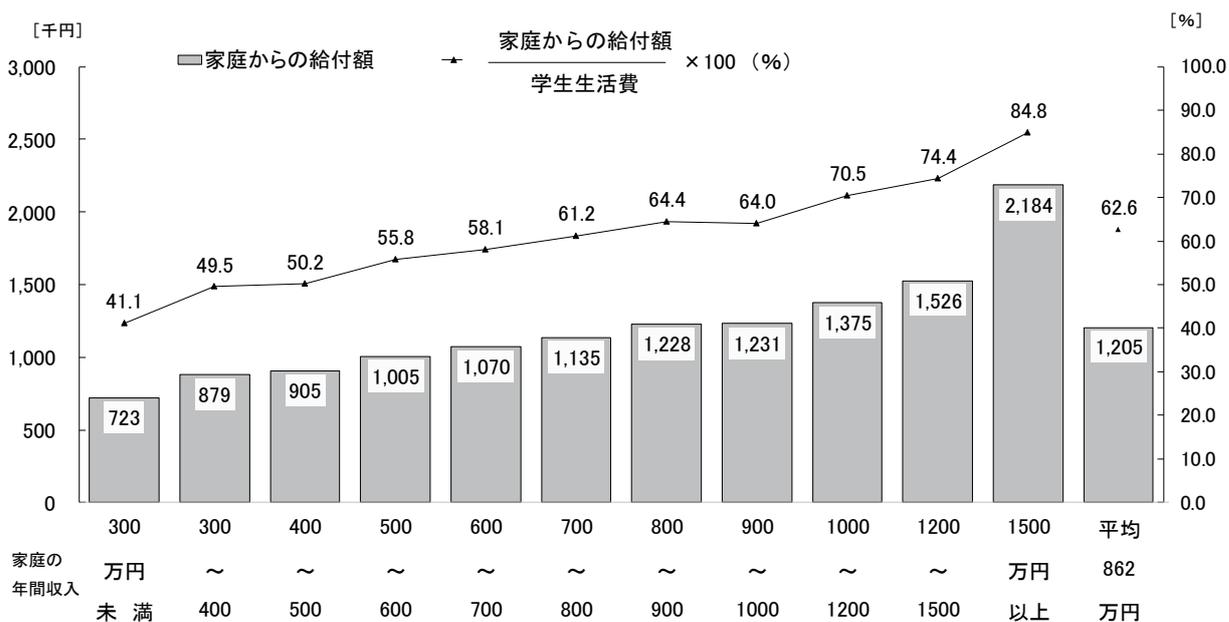
区 分		大学 (昼間部)	短期大学 (昼間部)	大 学 院		
				修士課程	博士課程	専門職 学位課程
平成30年度	国 立	8,540	...	8,700	7,330	8,610
	公 立	7,500	6,010	7,550	7,560	6,990
	私 立	8,710	6,420	8,890	9,700	8,340
	平 均	(3.9)	(3.4)	(4.1)	(7.7)	(6.0)
		8,620	6,400	8,690	7,940	8,420
平成28年度平均		(0.7)	(△ 5.9)	(5.6)	(0.4)	(△ 0.6)
		8,300	6,190	8,350	7,370	7,940
平成26年度平均		(1.5)	(3.9)	(1.5)	(6.4)	(△ 22.1)
		8,240	6,580	7,910	7,340	7,990
平成24年度平均		(1.9)	(0.0)	(△ 2.0)	(△ 7.4)	(17.5)
		8,120	6,330	7,790	6,900	10,260
平成22年度平均		(△ 3.0)	(△ 4.4)	(△ 1.9)	(△ 0.1)	(△ 0.5)
		7,970	6,330	7,950	7,450	8,730

※ () は、直前の調査との比較である(単位：%)。

(3) 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合(第5図)

大学(昼間部)について家庭の年間収入額と家庭からの給付額の間関係を見てみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く、また、学生生活費に対する家庭からの給付額の割合も高くなる傾向となっている。

第5図 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合(大学(昼間部))



(4) 家庭の収入階層区別学生数(大学(昼間部))の割合 (L表)

総務省の家計調査(平成30年)から全国全世帯の45～54歳の世帯主(学生の家庭の世帯主年齢と想定)を抜き出し、その五分位階層区分(※)を推計し、これに大学(昼間部)の家庭の年間収入額別学生数を当てはめて各区分別学生数の割合を見たところ、L表のとおりとなった。

国・公・私立のいずれにおいても第Ⅰ五分位に最も高い分布を示しているが、平成28年度と比較するとそれぞれ0.7ポイント減(国立)、2.0ポイント減(公立)、3.3ポイント減(私立)となっている。

(※) 集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したものの。

L表 家庭の収入階層区別学生数の割合【45～54歳の世帯主】(大学(昼間部))

[単位:%]

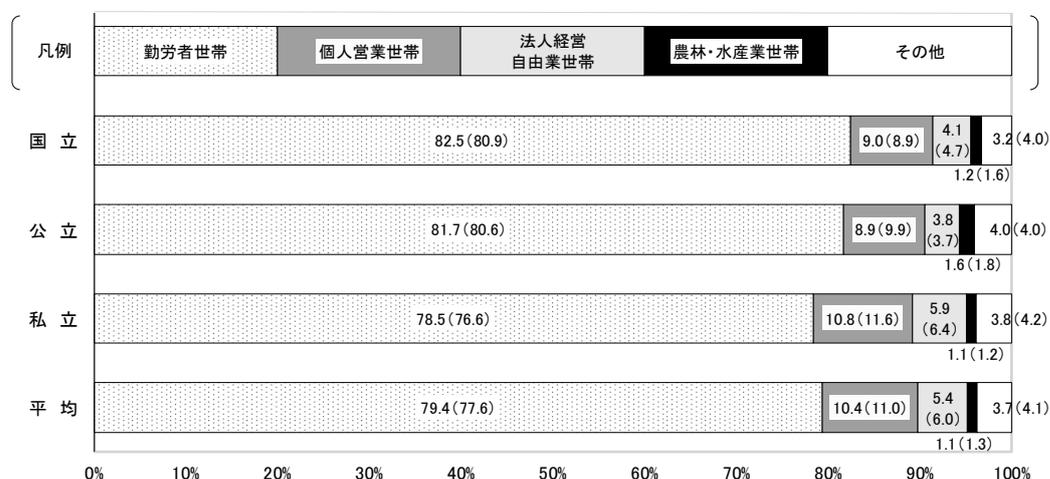
区分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (～5,064) 5,121千円未満	千円 (5,064～6,674) 5,121千円以上 6,810千円未満	千円 (6,674～8,092) 6,810千円以上 8,487千円未満	千円 (8,092～10,092) 8,487千円以上 10,815千円未満	千円 (10,092～) 10,815千円以上
国立	(23.7) 23.0	(13.7) 13.9	(18.0) 19.3	(20.4) 22.0	(24.2) 21.7
公立	(30.3) 28.3	(16.5) 18.5	(19.6) 18.0	(17.6) 19.2	(15.9) 15.9
私立	(27.7) 24.4	(15.5) 15.9	(17.8) 19.1	(19.4) 21.0	(19.7) 19.6
平均	(27.1) 24.4	(15.2) 15.7	(17.9) 19.1	(19.5) 21.0	(20.3) 19.8

(注) ()は、平成28年度調査の額及び割合である。

(5) 主たる家計支持者の世帯区別学生数(大学(昼間部))の割合 (第6図)

主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合は、国・公・私立いずれも勤労者世帯の割合が高くなっており、前回調査と比較して、その傾向は変わらない。

第6図 主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合(大学(昼間部))



(注) ()は、平成28年度調査の割合である。

4. アルバイトの従事状況

(1) アルバイトの従事状況 (M表、第7図)

調査時前の1年間においてアルバイトに従事した経験を有する者（以下「アルバイト従事者」という）の全学生に対する割合は、M表のとおりである。

アルバイト従事者の割合は、すべての学校区分で前回調査より増加しており、大学（昼間部）2.5ポイント増、短期大学（昼間部）1.8ポイント増、修士課程2.5ポイント増、博士課程0.6ポイント増、専門職学位課程3.9ポイント増となっている。

アルバイト従事者の内訳を見てみると、「家庭からの給付のみで修学可能」とする者の割合が、大学（昼間部）52.0%、短期大学（昼間部）47.0%、修士課程43.8%であるのに対し、博士課程19.9%、専門職学位課程23.0%となっている。前回調査と比較すると、「家庭からの給付のみで修学可能」とする者の割合は、すべての学校区分で増加しており、他方「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し」についても、短期大学（昼間部）、専門職学位課程において増加している。

次に、M表におけるアルバイト従事者を分母（100%）として、その経済状況の割合を表したものが第7図となる。大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、修士課程、専門職学位課程については、概ね5～6割が「家庭からの給付のみで修学可能」となっている一方、博士課程については、他の学校区分と比較して「家庭からの給付のみで修学可能」の割合が27.8%と低く、「家庭からの給付なし」の割合が40.6%と高くなっている。なお、大学（昼間部）を男女別に見たところ、大きな差は見られなかった。

M表 アルバイトの従事状況

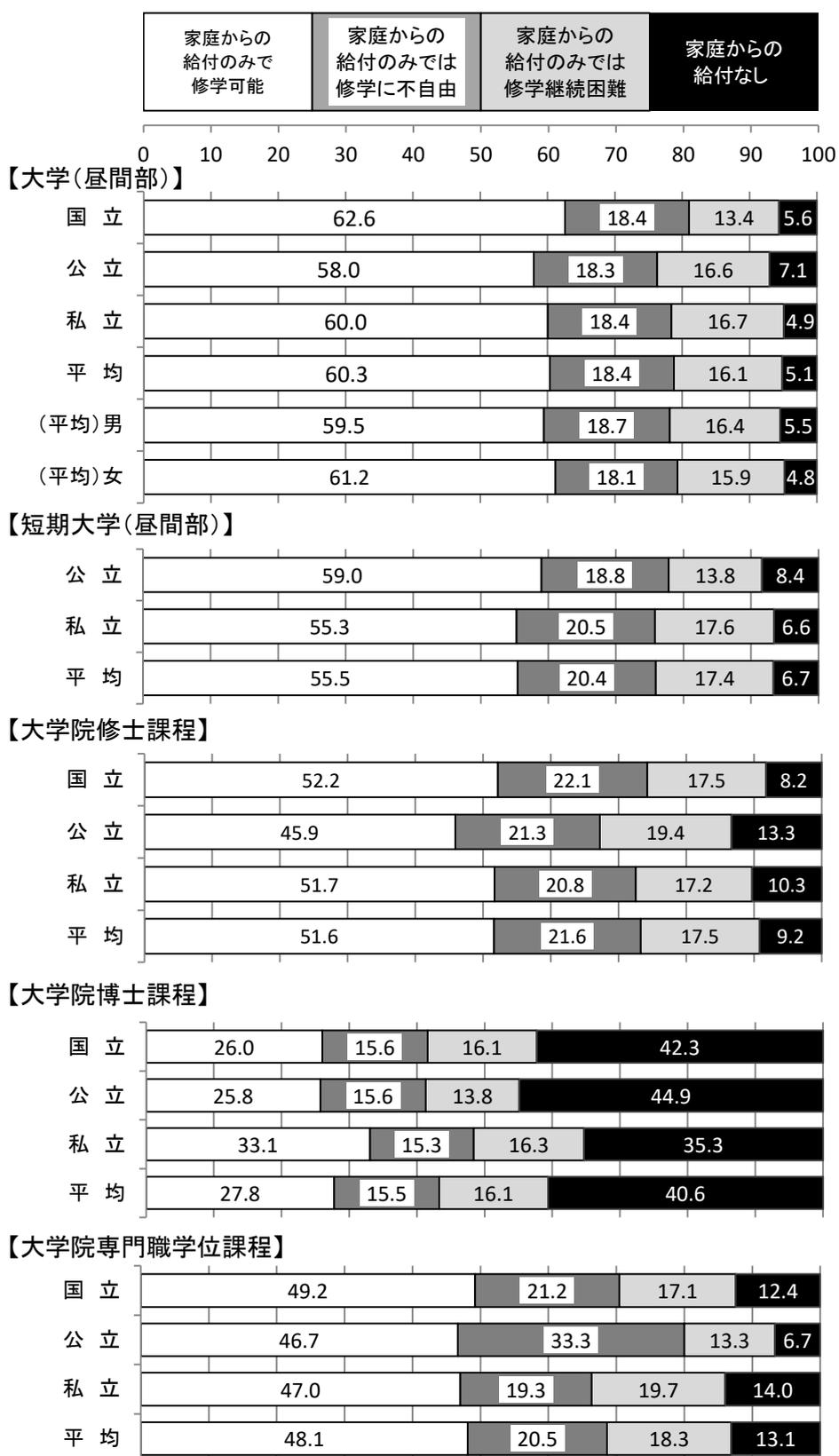
区 分		[単位:%]		
		平成 28年度	平成 30年度	
大 学 院	大 学 部	アルバイト従事者	83.6	86.1 (2.5)
		家庭からの給付のみで修学可能	47.5	52.0 (4.5)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	36.0	34.1 (▲1.9)
	アルバイト非従事者	16.4	13.9 (▲2.5)	
大 学 院	短 期 大 学 部	アルバイト従事者	82.9	84.7 (1.8)
		家庭からの給付のみで修学可能	45.8	47.0 (1.2)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	37.0	37.7 (0.7)
	アルバイト非従事者	17.1	15.3 (▲1.8)	
大 学 院	大 学 部	修士課程	82.3	84.8 (2.5)
		家庭からの給付のみで修学可能	39.8	43.8 (4.0)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	42.5	41.0 (▲1.5)
		アルバイト非従事者	17.7	15.2 (▲2.5)
	大 学 部	博士課程	71.0	71.6 (0.6)
		家庭からの給付のみで修学可能	17.8	19.9 (2.1)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	53.1	51.7 (▲1.4)
		アルバイト非従事者	29.0	28.4 (▲0.6)
大 学 院	専 門 職 学 位 課 程	アルバイト従事者	43.9	47.8 (3.9)
		家庭からの給付のみで修学可能	19.5	23.0 (3.5)
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	24.4	24.7 (0.3)
		アルバイト非従事者	56.1	52.2 (▲3.9)

※ ()は、直前の調査との増減である。

※ 大学院の「アルバイト従事者」には、TA(ティーチング・アシスタント)、RA(リサーチ・アシスタント)を含む。

第7図 アルバイト従事者の経済状況

(単位：%)



(注1)各図の数値は、学生生活調査結果集計表Ⅰ・大学・短期大学のH-1表、H-2表、同Ⅱ・大学院のH-1表、H-2表、H-3表を基に、全学生のうち、アルバイト従事者を100とした割合。

(注2)大学院は、TA(ティーチングアシスタント)とRA(リサーチアシスタント)従事者を含む。

(2) アルバイト従事時期別学生数の割合 (N表、第8図)

アルバイト従事時期別学生数の割合について、学校区分別に見てみると、平均では、大学院の「経常的」の割合が60%~70%台であるのに対し、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)の「経常的」の割合は80%台となっており、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)のほうが「経常的」に従事する割合が高くなっている。さらに、「経常的」の内訳を見ると、大学院の授業期間中では、「週1、2日」の割合のほうが高い傾向であるのに対し、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)では、授業期間中・長期休暇中とも「週3日以上」の割合のほうが高い傾向となっており、長期休暇中では特にその割合が高い。また、「週3日以上」の割合をさらに設置者別に見てみると、大学(昼間部)では、公・私立が国立と比較して10ポイント程度高くなっており、短期大学(昼間部)では、私立が公立と比較して5ポイント程度高くなっている。なお、大学(昼間部)について前回調査と比較したところ、これらの傾向は前回調査より変わっていない。

授業期間中と長期休暇中の割合について比較したところ、「臨時的(不定期)」については、すべての学校区分において長期休暇中のほうが割合が高くなっており、平均では、授業期間中よりも1.9ポイント~3.8ポイント高くなっている。

N表 アルバイト従事時期別学生数の割合

[単位:%]

区分	授業期間中					長期休暇中					
	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	
大学(昼間部)											
国立	14.4	41.9	43.7	85.6	100.0	19.5	22.7	57.8	80.5	100.0	
公立	11.1	35.0	53.8	88.8	100.0	15.5	14.6	69.9	84.5	100.0	
私立	12.3	36.8	50.8	87.6	100.0	15.2	15.3	69.5	84.8	100.0	
平均	12.6	37.6	49.8	87.4	100.0	15.9	16.5	67.6	84.1	100.0	
短期大学(昼間部)											
国立	13.4	38.8	47.8	86.6	100.0	17.4	17.0	65.6	82.6	100.0	
公立	13.6	34.0	52.5	86.5	100.0	15.3	12.4	72.2	84.6	100.0	
平均	13.5	34.2	52.2	86.4	100.0	15.4	12.7	71.9	84.6	100.0	
大学院	修士課程										
	国立	23.7	51.3	25.1	76.4	100.0	25.4	37.5	37.0	74.5	100.0
	公立	21.9	50.6	27.5	78.1	100.0	23.7	33.1	43.2	76.3	100.0
	私立	23.0	52.3	24.7	77.0	100.0	27.1	33.3	39.6	72.9	100.0
	平均	23.3	51.5	25.1	76.6	100.0	25.8	35.9	38.2	74.1	100.0
	博士課程										
	国立	23.7	51.0	25.3	76.3	100.0	26.4	43.7	29.9	73.6	100.0
	公立	17.9	49.5	32.6	82.1	100.0	21.4	44.8	33.9	78.7	100.0
	私立	19.5	55.1	25.4	80.5	100.0	26.0	45.2	28.7	73.9	100.0
	平均	22.2	52.1	25.7	77.8	100.0	26.0	44.2	29.8	74.0	100.0
専門職学位課程											
国立	25.0	50.3	24.7	75.0	100.0	30.1	30.7	39.2	69.9	100.0	
公立	30.8	38.5	30.8	69.3	100.0	35.7	35.7	28.6	64.3	100.0	
私立	29.7	51.0	19.4	70.4	100.0	31.4	31.7	36.8	68.5	100.0	
平均	27.3	50.5	22.3	72.8	100.0	30.8	31.3	37.9	69.2	100.0	

(注) 大学院は、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)従事者を含まない。

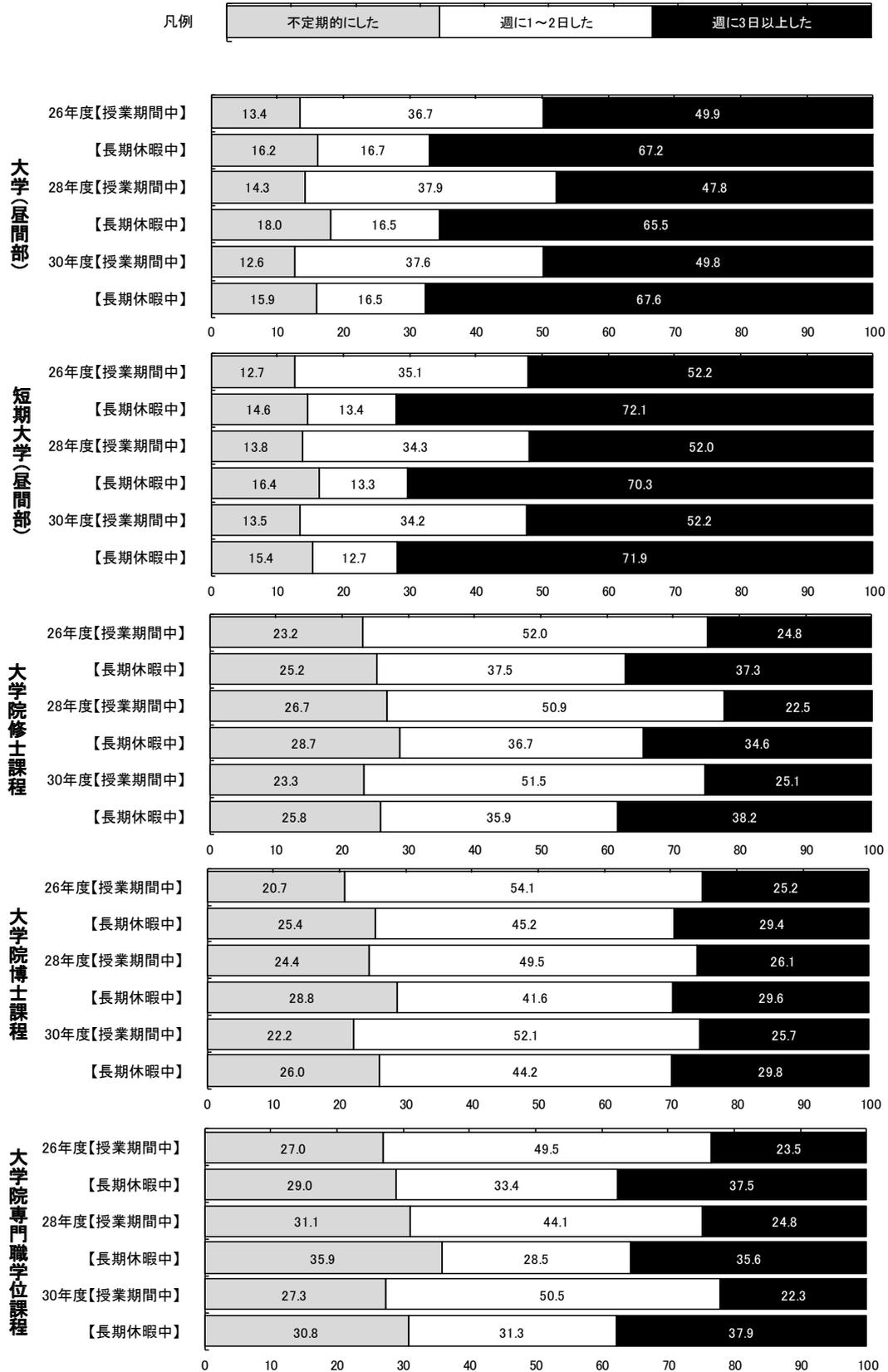
【参考】平成28年度 大学(昼間部)

[単位:%]

区分	授業期間中					長期休暇中				
	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計
大学(昼間部)										
国立	15.3	44.1	40.6	84.7	100.0	20.9	24.8	54.3	79.1	100.0
公立	14.5	36.9	48.6	85.5	100.0	17.6	16.6	65.8	82.4	100.0
私立	14.1	36.6	49.3	85.9	100.0	17.4	14.7	67.9	82.6	100.0
平均	14.3	37.9	47.8	85.7	100.0	18.0	16.5	65.5	82.0	100.0

第8図 アルバイト従事時期別学生数の割合の推移

[単位: %]



※ 大学院は、T A (ティーチングアシスタント) 及び R A (リサーチアシスタント) 従事者を含まない。

(3) アルバイト従事職種別学生数の割合 (〇表)

アルバイト従事職種は、調査時前の1年間においてアルバイトに従事した者について、授業期間中・長期休暇中別に関わらず従事した主な職種一つについて設問したものである。

アルバイト従事職種別の学生数の割合について、学校区分別に見てみると、短期大学(昼間部)では、軽労働が授業期間中88.4%・長期休暇中87.4%(以下この項目において%のみ記載とする。)と短期大学(昼間部)全体の9割近くを占めているのに対し、大学院では軽労働は5割以下、特に博士課程では10.6%・11.9%となっている。特殊技能その他では、博士課程で62.6%・61.3%と博士課程全体の6割を占めているのに対し、大学(昼間部)及び短期大学(昼間部)では10%未満となっている。また、家庭教師については、大学院が18.6%~29.1%となっているのに対し、短期大学(昼間部)では1.8%・1.6%にとどまっている。

次に、大学(昼間部)について設置者別に見てみると、家庭教師は、国立が28.5%・28.5%であるのに対し、公立14.3%・14.2%、私立9.3%・9.2%と国立より低い割合となっている。一方で、軽労働では、国立が60.5%・60.0%であるのに対し、公立75.5%・75.4%、私立76.7%・76.6%と国立より高い割合となっている。なお、平均について前回調査と比較したところ、大きな変化は見られなかった。

〇表 アルバイト従事職種別学生数の割合

[単位: %]

区分	家庭教師	事務						軽労働 (合計)	重労働・ 危険作業			特殊技能 その他 (合計)	計	
			販売	飲食業	販売・飲 食業を除 く軽労働	特殊技能	その他							
大学 (昼間部)	国立	授業期間中	28.5	2.9	16.0	38.6	5.9	60.5	0.9	1.4	5.8	7.2	100.0	
		長期休暇中	28.5	3.0	16.2	38.0	5.8	60.0	1.1	1.4	6.0	7.4	100.0	
	公立	授業期間中	14.3	2.5	24.5	44.7	6.3	75.5	0.7	1.0	6.0	7.0	100.0	
		長期休暇中	14.2	2.5	24.6	44.0	6.8	75.4	0.8	1.0	6.1	7.1	100.0	
	私立	授業期間中	9.3	2.9	26.1	43.8	6.8	76.7	1.5	1.2	8.4	9.6	100.0	
		長期休暇中	9.2	2.8	26.1	43.3	7.2	76.6	1.8	1.2	8.3	9.5	100.0	
平均		授業期間中	12.8	2.9	24.3	42.9	6.6	73.8	1.4	1.2	7.9	9.1	100.0	
		長期休暇中	12.6	2.8	24.4	42.4	7.0	73.8	1.7	1.3	7.8	9.1	100.0	
短期大学(昼間部)		授業期間中	1.8	1.3	28.5	54.2	5.7	88.4	0.8	0.5	7.3	7.8	100.0	
		長期休暇中	1.6	1.4	28.2	53.5	5.7	87.4	0.9	0.5	8.3	8.8	100.0	
大 学 院	修士課程	授業期間中	23.1	6.8	15.2	24.6	8.6	48.4	1.5	6.2	13.8	20.0	100.0	
		長期休暇中	22.8	6.7	15.6	25.1	9.0	49.7	1.6	6.3	13.0	19.3	100.0	
	博士課程	授業期間中	18.6	7.7	3.9	4.2	2.5	10.6	0.4	20.5	42.1	62.6	100.0	
		長期休暇中	18.6	7.7	4.4	4.7	2.8	11.9	0.6	21.3	40.0	61.3	100.0	
	専門職学位課程		授業期間中	29.1	12.3	11.8	16.9	6.1	34.8	1.2	4.5	18.2	22.7	100.0
			長期休暇中	27.1	12.3	11.7	16.6	8.0	36.3	1.1	4.6	18.5	23.1	100.0

(注1) 家庭教師には、塾講師などを含む。

(注2) 大学院は、TA(ティーチングアシスタント)及びRA(リサーチアシスタント)従事者を含まない。

【参考】平成28年度調査結果

[単位: %]

区分	家庭教師	事務						軽労働 (合計)	重労働・ 危険作業			特殊技能 その他 (合計)	計
			販売	飲食業	販売・飲 食業を除 く軽労働	特殊技能	その他						
大学(昼間部)		授業期間中	12.7	3.3	24.9	41.5	6.8	73.2	1.6	1.4	8.0	9.4	100.0
		長期休暇中	12.4	3.2	24.7	40.9	7.4	73.0	1.8	1.4	8.2	9.6	100.0

5. 奨学金の受給希望及び受給状況

(1) 学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第9図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構、地方公共団体、民間団体、学校からの奨学金受給者をいう）の割合について、学校区分別（平均）で比較したところ、奨学金「受給者」は、短期大学（昼間部）で55.2%と最も高くなっており、それ以外の区分では、専門職学位課程を除いて概ね50%前後となっている。

「受給者」の割合について、さらに設置者別に比較したところ、大学（昼間部）では公立が最も高く53.3%となっており、短期大学（昼間部）は公立が最も高く57.3%、修士課程は公立が最も高く54.8%、博士課程は国立が最も高く56.5%、専門職学位課程では私立が最も高く41.5%となっている。

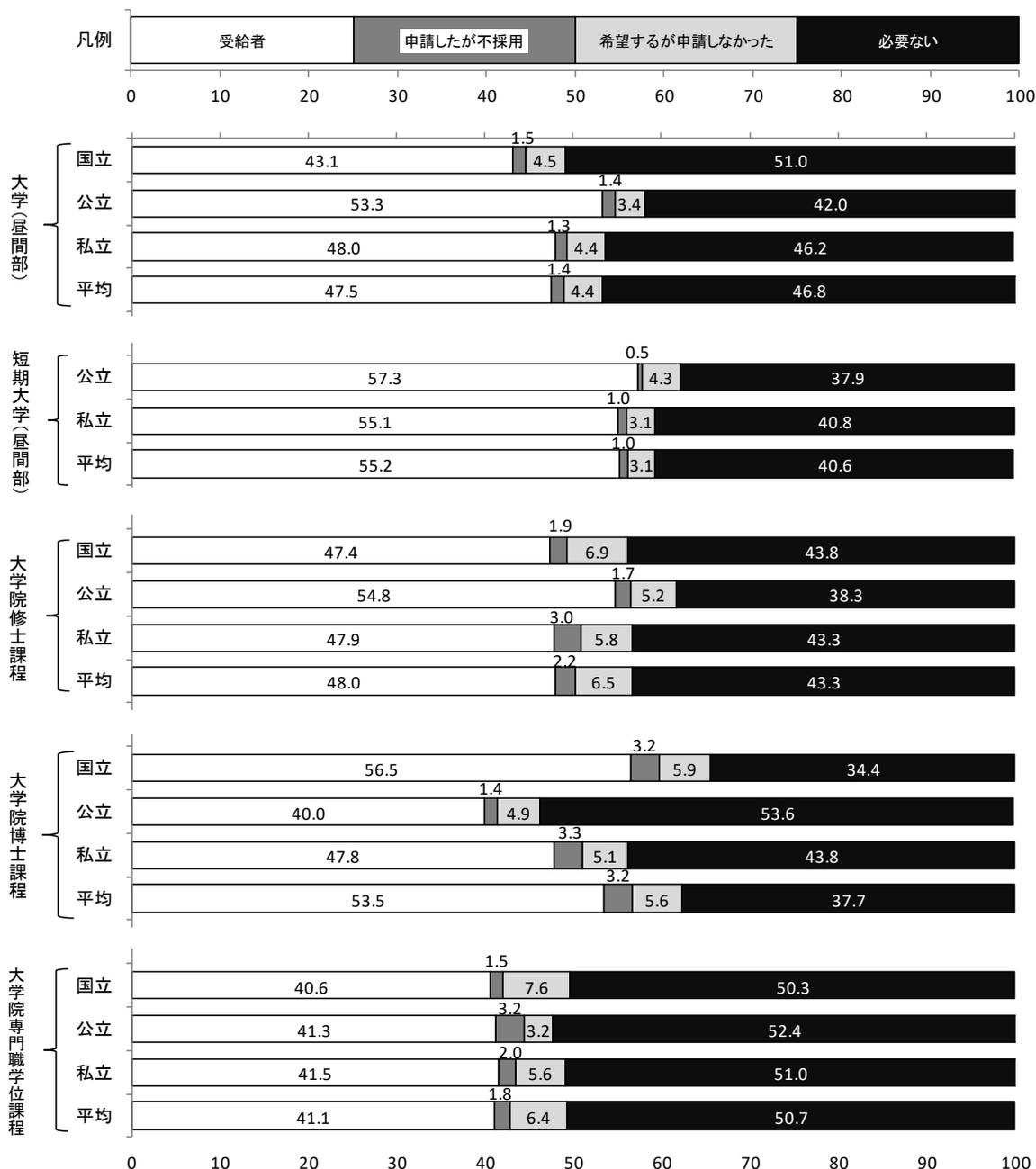
次に、「申請したが不採用」では、大学（昼間部）1.4%、短期大学（昼間部）1.0%であるのに対して、大学院では1.8~3.2%と、やや割合が高くなっている。「希望するが申請しなかった」についても、大学（昼間部）4.4%、短期大学（昼間部）3.1%であるのに対して、大学院では5.6~6.5%と、やや割合が高くなっている。

「受給者」「申請したが不採用」「希望するが申請しなかった」の合計を奨学金受給希望者とする、その割合は、大学（昼間部）53.3%、短期大学（昼間部）59.3%、修士課程56.7%、博士課程62.3%、専門職学位課程49.3%となっており、専門職学位課程を除くいずれの学校区分も50%~60%台の割合となっている。

なお、「受給者」「申請したが不採用」の合計を奨学金申請者として、奨学金申請者を分母とした「受給者」の割合を見てみると、大学（昼間部）97.1%、短期大学（昼間部）98.2%、修士課程95.6%、博士課程94.4%、専門職学位課程95.8%となっている。

第9図 学校区分別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況

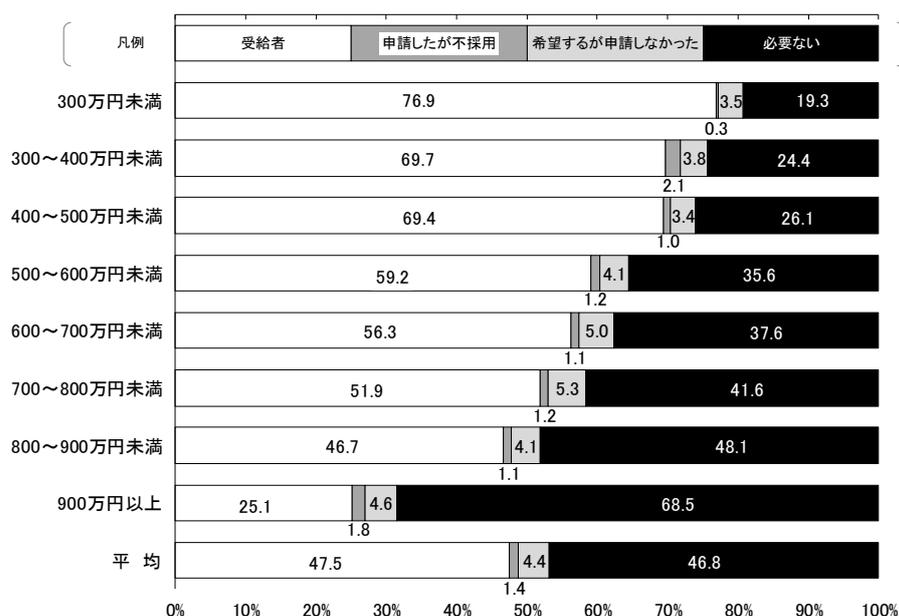
[単位：％]



(2) 家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況 (第10図)

大学(昼間部)について家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況を見てみると、家庭の年間収入が高くなるにつれて「受給者」の割合は低くなっている。なお、「申請したが不採用」「希望するが申請をしなかった」については、家庭の年間収入による大きな差は見られない。

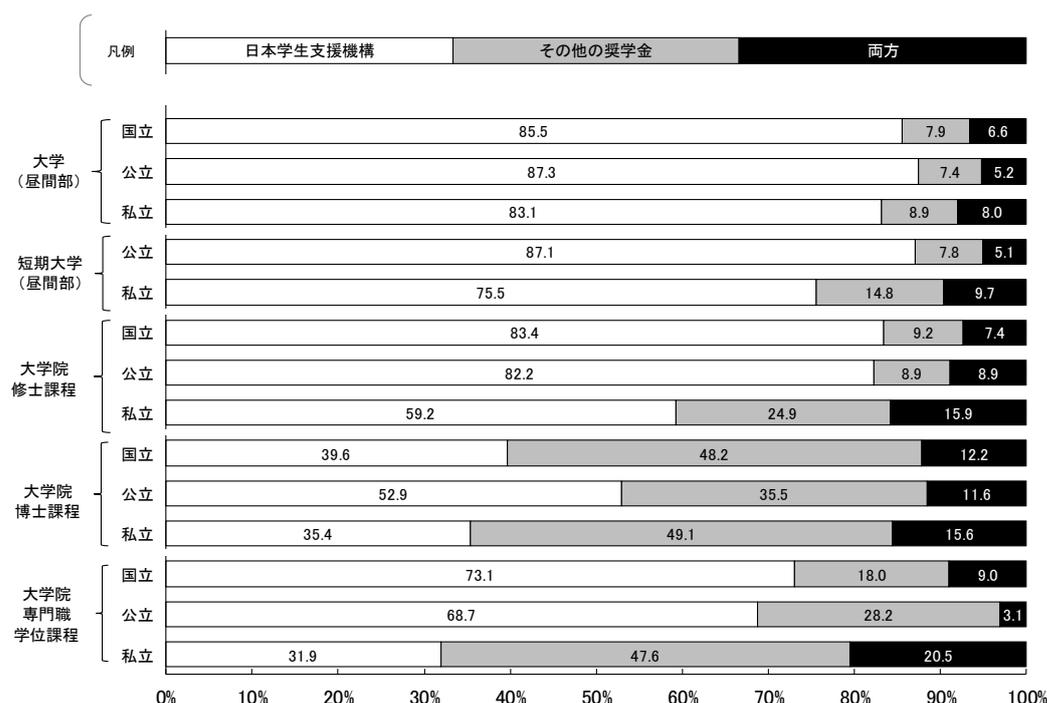
第 10 図 家庭の年間収入別の奨学金受給希望・受給状況(大学(昼間部))



(3) 奨学金の種類別・設置者別受給状況 (第 11 図)

奨学金の種類別受給状況を設置者別に見てみると、すべての学校区分において、その他の奨学金受給者(「その他の奨学金」「両方」の合計)の割合は、私立が最も高くなっている。また、その割合は大学(昼間部)、短期大学(昼間部)より大学院のほうが高くなっており、それぞれ修士課程私立 40.8%、博士課程私立 64.7%、専門職学位課程私立 68.1%となっている。

第 11 図 奨学金の種類別・設置者別受給状況



6. 居住形態別・地域別通学時間（第12図、P表）

居住形態別の通学時間（片道の通学時間）について、「自宅」からの通学者では、すべての学校区分において「31～60分」と回答した割合が最も高く、次いで「61～90分」と回答した割合が高くなっている。「31～60分」「61～90分」の割合を合計すると、博士課程を除いて、いずれも5割を超えており、大学（昼間部）60.6%、短期大学（昼間部）62.9%、修士課程58.4%、専門職学位課程62.6%となっている。

一方で、「学寮」からの通学者では、すべての学校区分において「0～10分」と回答した割合が最も高く、いずれも5割を超えており、その割合が最も高い専門職学位課程では77.1%となっている。

「アパート等」からの通学者については、「0～10分」「11～20分」の割合を合計すると、すべての学校区分において、いずれも5割を超えており、特に、大学（昼間部）は77.3%、修士課程は77.6%と70%以上となっている。

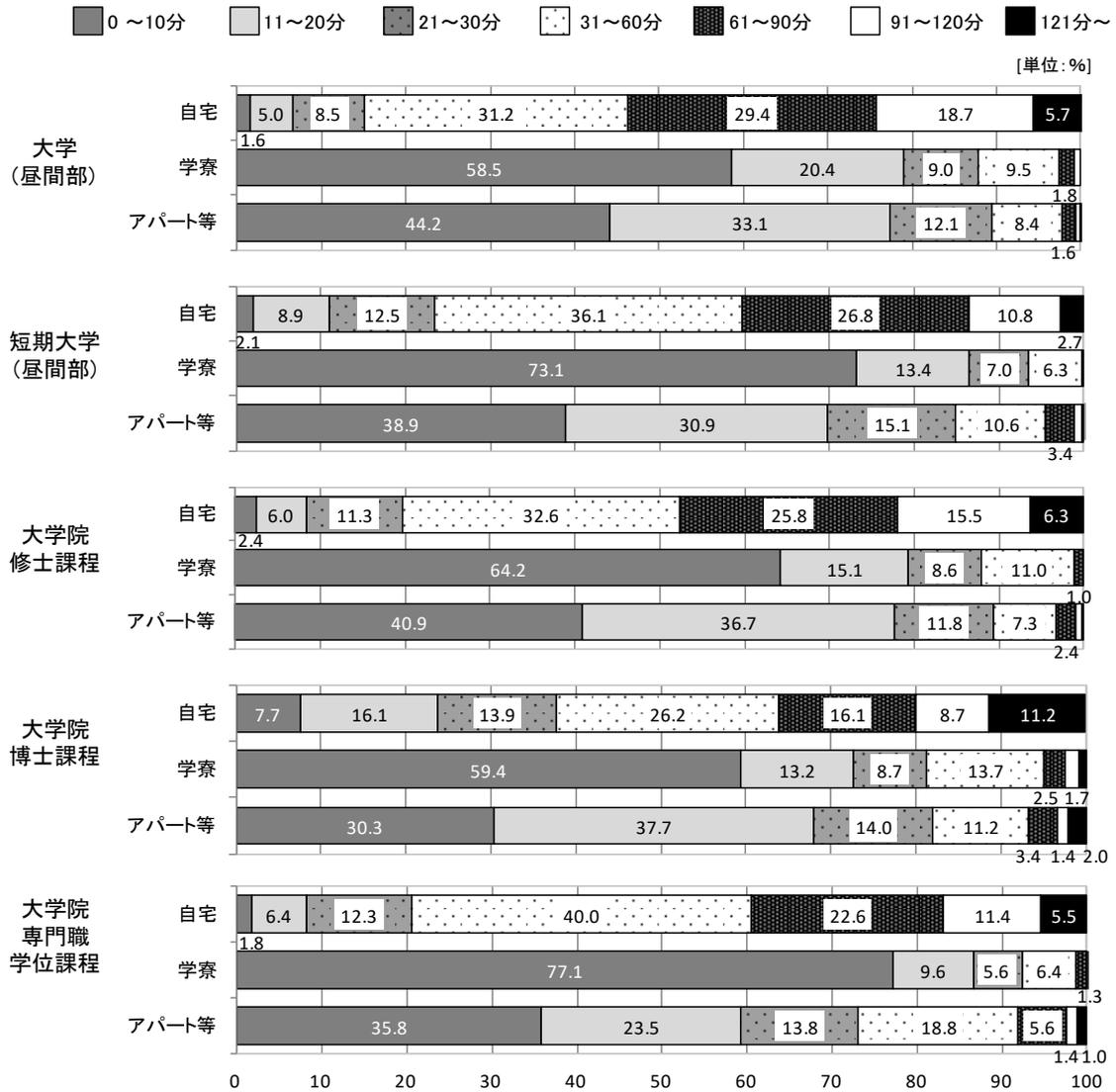
次に、大学（昼間部）について地域別に見てみると、「自宅」からの通学者では、「31～90分」と回答した割合（「31～60分」「61～90分」の合計）では大きな差は見られないが、「0～30分」と回答した割合（「0～10分」「11～20分」「21～30分」の合計）で見ると、東京圏8.1%、京阪神13.9%、その他23.6%となっており、東京圏よりその他のほうが15.5ポイント高くなっている。

「学寮」からの通学者では、「0～10分」と回答した割合は、東京圏44.3%、京阪神51.2%、その他71.8%となっており、東京圏よりその他のほうが27.5ポイント高くなっている。

「アパート等」からの通学者については、「0～10分」「11～20分」の割合を合計すると、東京圏58.8%、京阪神79.2%、その他87.2%となっており、東京圏よりその他のほうが28.4ポイント高くなっている。

なお、大学（昼間部）の全国平均について前回調査と比較したところ、大きな変化は見られなかった。

第12図 居住形態別片道通学時間



P表 居住形態別・地域別片道通学時間(大学(昼間部))

[単位: %]

区分			0~10分	11~20分	21~30分	31~60分	61~90分	91~120分	121分以上	計
平成30年度	自宅	東京圏	0.6	2.3	5.2	30.9	33.2	21.0	6.9	100.0
		京阪神	1.8	4.1	8.0	28.5	30.2	22.5	5.0	100.0
		その他	2.8	8.4	12.4	32.7	24.7	14.5	4.6	100.0
		全国	1.6	5.0	8.5	31.2	29.4	18.7	5.7	100.0
	学寮	東京圏	44.3	16.3	14.9	18.6	4.1	1.6	-	100.0
		京阪神	51.2	32.4	10.7	4.5	-	1.1	-	100.0
		その他	71.8	21.2	3.6	3.1	0.3	-	-	100.0
		全国	58.5	20.4	9.0	9.5	1.8	0.8	-	100.0
	アパート等	東京圏	28.3	30.5	19.6	17.5	3.0	1.0	0.1	100.0
		京阪神	39.1	40.1	10.8	6.7	1.8	1.2	0.3	100.0
		その他	54.3	32.9	8.1	3.6	0.8	0.3	0.1	100.0
		全国	44.2	33.1	12.1	8.4	1.6	0.6	0.1	100.0
(参考) 平成28年度	自宅	全国	1.4	5.2	8.4	30.4	29.5	19.6	5.6	100.0
	学寮	全国	61.6	18.9	8.8	8.5	1.1	0.7	0.5	100.0
	アパート等	全国	46.3	32.9	11.2	7.8	1.5	0.3	0.1	100.0

7. 週間平均生活時間（Q表）

週間平均生活時間は、「授業期間中の典型的な1週間（7日間）の生活時間」について設問したものである。なお、大学及び短期大学と大学院では、「アルバイト・定職」「就職活動」「娯楽・交友」の選択肢を除いて、選択肢の内容が異なるため留意する必要がある。

①大学（昼間部）・短期大学（昼間部）

「大学の授業の予習・復習など」については、大学（昼間部）及び短期大学（昼間部）とも「1～5時間」と回答した割合が5割を超えている。また、「卒業論文・卒業研究」「大学の授業以外の学習」「部活動・サークル活動」「就職活動」について、「0時間」と回答した割合が5割近く、または5割を超える状況となっている。

このうち、「卒業論文・卒業研究」「就職活動」については、いずれも「0時間」と回答した割合が概ね70%～80%となっているが、これは学年による違いが出るため、3年次及び4年次のみ（大学（昼間部））、1年次及び2年次のみ（短期大学（昼間部））の状況についてQ表に併せて掲載した。「卒業論文・卒業研究」について見てみると、大学（昼間部）4年次では15.9%と低く、短期大学（昼間部）では1年次92.6%と比較して2年次49.2%と低くなっている。次に、「就職活動」について見てみると、大学（昼間部）4年次では学年全体平均と大きく変わらないが、3年次では59.2%と低く、短期大学（昼間部）では1年次88.5%と比較して2年次55.5%と低くなっている。

なお、前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ、「0時間」と回答した割合では、「アルバイト・定職」で6.5ポイント減少、「就職活動」では5.7ポイント減少しており、他の区分についても、「0時間」と回答した割合が減少している。

ただし、前回調査から設問の一部が変更されている点（※）に留意しておく必要がある。

（※）「あなたの最近1週間（7日間）の生活時間について」（前回調査）が、「授業期間中の典型的な1週間（7日間）の生活時間について」（今回調査）に変更となった。

②大学院

「大学内での授業、研究、実習、実験」については、修士課程及び博士課程では「31時間以上」と回答した割合が最も高くなっており、修士課程47.7%、博士課程43.2%となっている。なお、「大学外での学習、研究」については、「0時間」と回答した割合が修士課程24.3%、博士課程25.1%となっているが、専門職学位課程では8.8%と低くなっている。

「アルバイト・定職」については、「0時間」と回答した割合が、修士課程36.1%、博士課程36.7%、専門職学位課程43.2%と高くなっている。ただし、一方で、「31時間以上」と回答した割合は、博士課程24.3%、専門職学位課程27.4%と、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）、修士課程よりも高くなっている。

Q表 週間平均生活時間

[単位:%]

区分		0時間	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業	3.9	14.1	11.6	15.7	22.5	17.9	7.7	6.0	0.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	17.5	54.0	16.6	6.4	2.3	1.1	0.6	0.9	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	70.8	11.8	5.1	3.2	2.2	1.6	1.0	3.7	0.6	100.0
	うち3年のみ	70.5	22.4	4.0	1.1	0.6	0.3	0.1	0.3	0.6	100.0
	うち4年のみ	15.9	23.4	16.2	11.7	8.1	6.1	3.8	14.2	0.6	100.0
	大学の授業以外の学習	43.2	37.7	9.8	3.8	1.7	0.9	0.6	1.5	0.8	100.0
	部活動・サークル活動	48.0	26.3	12.1	5.8	3.3	1.8	0.9	1.4	0.5	100.0
	アルバイト・定職	21.7	10.6	17.0	20.6	16.8	7.5	2.6	2.7	0.4	100.0
	就職活動	82.3	11.9	2.9	1.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.6	100.0
	うち3年のみ	59.2	30.7	6.4	1.7	0.7	0.2	0.2	0.1	0.7	100.0
うち4年のみ	74.3	14.2	4.8	3.1	1.4	0.6	0.5	0.7	0.5	100.0	
娯楽・交友	2.3	27.9	28.8	17.7	9.4	4.8	2.0	6.4	0.7	100.0	
短期大学 (昼間部)	大学の授業	0.0	6.1	14.9	14.8	17.2	16.3	15.6	13.5	1.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	19.3	60.9	12.1	4.0	1.5	0.9	0.2	0.3	0.9	100.0
	卒業論文・卒業研究	69.5	21.9	4.5	1.5	0.5	0.4	0.2	0.2	1.2	100.0
	うち1年のみ	92.6	5.1	0.7	0.2	-	0.1	-	0.1	1.3	100.0
	うち2年のみ	49.2	37.0	7.8	2.8	1.0	0.6	0.3	0.4	1.0	100.0
	大学の授業以外の学習	54.6	34.8	6.0	1.6	0.8	0.3	0.1	0.3	1.3	100.0
	部活動・サークル活動	75.3	17.8	3.8	1.3	0.9	0.3	0.1	0.1	0.5	100.0
	アルバイト・定職	23.8	10.6	15.1	19.2	16.3	7.7	3.2	3.3	0.8	100.0
	就職活動	70.7	22.2	3.9	1.2	0.5	0.2	0.1	0.2	1.0	100.0
	うち1年のみ	88.5	9.1	1.0	0.1	0.1	0.1	-	0.1	1.0	100.0
うち2年のみ	55.5	33.0	6.9	2.3	0.8	0.2	0.2	0.2	1.0	100.0	
娯楽・交友	4.0	31.7	28.9	15.7	8.1	3.8	2.1	4.6	1.1	100.0	

(参考)平成28年度調査

[単位:%]

区分		0時間	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業	6.1	14.5	10.7	16.2	22.2	16.8	6.6	6.2	0.7	100.0
	大学の授業の予習・復習など	20.8	51.9	15.9	5.7	2.1	1.2	0.6	1.1	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	72.7	10.6	4.8	2.4	1.9	1.6	1.2	4.3	0.6	100.0
	大学の授業以外の学習	45.4	35.6	9.1	3.4	1.8	1.1	0.6	2.1	0.9	100.0
	部活動・サークル活動	48.4	25.6	11.8	5.7	3.5	1.7	1.0	1.6	0.6	100.0
	アルバイト・定職	28.2	10.2	16.4	18.5	14.9	6.4	2.5	2.5	0.6	100.0
	就職活動	88.0	8.3	1.8	0.8	0.3	0.1	0.0	0.1	0.6	100.0
	娯楽・交友	3.5	29.4	29.0	16.5	9.1	4.1	1.8	5.5	1.0	100.0

[単位:%]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学院修士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	0.6	7.0	11.8	9.2	7.2	8.0	8.2	47.7	0.3	100.0
	大学外での学習、研究	24.3	31.1	17.8	8.8	6.2	3.5	1.8	5.2	1.2	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	58.3	30.8	6.6	1.3	0.4	0.2	0.1	0.2	2.2	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	92.8	2.1	1.2	0.6	0.4	0.1	0.1	0.1	2.8	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	36.1	12.7	17.2	12.8	8.0	3.1	1.1	7.7	1.3	100.0
	就職活動	64.6	22.0	7.0	2.2	1.0	0.4	0.1	0.3	2.4	100.0
	娯楽・交友	3.1	28.1	27.0	17.0	9.0	5.1	2.3	6.4	2.0	100.0
大学院博士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	6.8	17.3	10.2	5.8	5.5	5.1	5.3	43.2	0.8	100.0
	大学外での学習、研究	25.1	25.4	15.2	8.9	6.3	3.8	2.4	10.4	2.5	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	69.7	18.1	5.2	1.5	0.6	0.2	0.2	0.2	4.3	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	72.9	8.9	5.9	3.0	2.3	0.9	0.5	1.0	4.5	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	36.7	6.7	9.4	8.0	6.3	3.8	2.7	24.3	2.3	100.0
	就職活動	87.3	6.1	1.3	0.4	0.1	0.1	0.1	0.2	4.4	100.0
	娯楽・交友	7.7	32.6	26.2	14.3	7.0	3.3	1.7	3.2	4.1	100.0
大学院専門職学位課程	大学内での授業、研究、実習、実験	0.7	15.6	22.5	22.7	12.1	6.0	3.5	16.4	0.3	100.0
	大学外での学習、研究	8.8	20.7	20.4	14.8	9.4	5.9	3.9	14.3	1.9	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	86.9	4.8	1.2	0.3	0.2	-	-	-	6.5	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	91.2	1.7	0.3	0.2	0.1	0.0	-	-	6.4	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	43.2	7.4	7.4	4.7	3.6	1.6	0.9	27.4	3.7	100.0
	就職活動	85.5	5.3	1.6	0.6	0.3	0.1	-	0.3	6.2	100.0
	娯楽・交友	7.7	36.3	26.1	13.3	5.8	2.9	1.1	2.8	4.1	100.0

8. 大学の学生支援体制への満足度(R表)

大学の学生支援体制の利用の有無、及び満足度の状況については、R表のとおりである。まず、「利用したことがない」と回答した割合を見たところ、「図書館・自習室などの学習支援施設」は、すべての学校区分で4.2～15.1%と低いが、「図書館・自習室などの学習支援施設」以外では、短期大学（昼間部）の「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」を除いて、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「利用したことがない」の中では、いずれも「利用したことがない」と回答した割合が最も高くなっている。

「利用したことがない」と回答した割合を学校区分別に比較してみると、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」では、学校区分に関わらず概ね40%前後となっているが、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」以外では、いずれも博士課程の割合が最も高くなっている。

次に、「利用したことがある」と回答した者のうち、「満足」「やや満足」と回答した割合を学校区分別に比較してみると、いずれも短期大学（昼間部）の割合が最も高く、博士課程の割合が最も低くなっている。

R表 大学の学生支援体制への満足度

[単位:%]

区分	利用したことがある					計	利用したことがない	無回答
	満足	やや満足	やや不満	不満				
図書館・自習室 などの学習支援施設	大学 (昼間部)	(85.4)		(14.6)		(100.0)		
		39.6	42.0	11.2	2.8	95.6	4.4	0.1
	短期大学 (昼間部)	(90.5)		(9.5)		(100.0)		
		45.3	36.9	7.0	1.6	90.8	9.2	0.1
	大学院 修士課程	(82.1)		(17.9)		(100.0)		
		38.5	39.7	13.8	3.3	95.3	4.6	0.1
キャリアセンター などでの就職・進路 への支援	大学院 博士課程	(78.4)		(21.6)		(100.0)		
		33.8	32.7	13.5	4.8	84.8	15.1	0.0
	大学院 専門職学位課程	(83.7)		(16.3)		(100.0)		
		46.4	33.8	11.8	3.8	95.8	4.2	0.0
	大学 (昼間部)	(80.1)		(19.9)		(100.0)		
		15.1	25.6	7.6	2.5	50.8	49.1	0.1
学習・生活面での カウンセリング	短期大学 (昼間部)	(90.7)		(9.3)		(100.0)		
		33.8	30.3	5.2	1.4	70.7	29.2	0.2
	大学院 修士課程	(74.5)		(25.5)		(100.0)		
		13.8	25.4	9.6	3.8	52.6	47.3	0.1
	大学院 博士課程	(64.9)		(35.1)		(100.0)		
		6.1	11.5	6.2	3.3	27.1	72.9	0.1
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学院 専門職学位課程	(73.9)		(26.1)		(100.0)		
		8.6	13.8	5.1	2.8	30.3	69.7	0.1
	大学 (昼間部)	(77.1)		(22.9)		(100.0)		
		10.3	20.6	7.0	2.2	40.1	59.8	0.1
	短期大学 (昼間部)	(87.7)		(12.3)		(100.0)		
		19.5	26.8	5.3	1.2	52.8	47.0	0.2
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学院 修士課程	(72.7)		(27.3)		(100.0)		
		9.9	17.3	7.6	2.6	37.4	62.4	0.1
	大学院 博士課程	(67.7)		(32.3)		(100.0)		
		7.8	12.3	6.4	3.2	29.7	70.4	0.1
	大学院 専門職学位課程	(80.2)		(19.8)		(100.0)		
		14.3	20.5	6.0	2.6	43.4	56.4	0.1
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学 (昼間部)	(77.5)		(22.5)		(100.0)		
		16.4	28.1	10.1	2.8	57.4	42.5	0.1
	短期大学 (昼間部)	(89.3)		(10.7)		(100.0)		
		25.2	30.8	5.7	1.0	62.7	37.1	0.2
	大学院 修士課程	(70.3)		(29.7)		(100.0)		
		16.1	28.2	13.8	4.9	63.0	36.9	0.1
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学院 博士課程	(65.2)		(34.8)		(100.0)		
		13.9	23.6	14.1	5.9	57.5	42.4	0.2
	大学院 専門職学位課程	(75.6)		(24.4)		(100.0)		
		19.9	21.9	9.6	3.9	55.3	44.5	0.2

9. 学生の不安や悩み(S表)

学生の不安や悩みについて、「大いにある」「少しある」と回答した割合を見たところ、すべての学校区分において「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」が最も高い割合を示している。一方、「大いにある」「少しある」と回答した割合が最も低かったのは、大学（昼間部）・短期大学（昼間部）では「経済的に勉強を続けることが難しい」で、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」との差は、大学（昼間部）53.9ポイント、短期大学（昼間部）41.2ポイントとなっており、大学院では「学内の友人関係の悩みがある」で、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」との差は、修士課程 35.9ポイント、博士課程 33.8ポイント、専門職学位課程 24.5ポイントとなっている。

次に、それぞれを学校区分別に比較したところ、「授業の内容についていけない」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）31.6%、短期大学（昼間部）28.8%、専門職学位課程 29.3%に比べて、修士課程は 19.7%、博士課程は 13.6%と低くなっている。また、博士課程の「全くない」と回答した割合は 5割を超えている。

「卒業後にやりたいことがみつからない」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）40.8%に比べて、博士課程は 17.1%、専門職学位課程は 16.1%と低くなっている。また、博士課程及び専門職学位課程の「全くない」と回答した割合は 5割を超えている。

「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）67.7%、短期大学（昼間部）54.2%に比べて、修士課程は 46.9%、博士課程は 42.9%、専門職学位課程は 37.1%となっている。ただし、「大いにある」と回答した割合は、すべての学校区分において、17.6%～29.4%と高い割合となっている。

「経済的に勉強を続けることが難しい」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、博士課程では 27.9%と、他の学校区分より高くなっている。「全くない」と回答した割合は、すべての学校区分において 5割前後となっている。

「学内の友人関係の悩みがある」については、「大いにある」「少しある」と回答した割合は、大学（昼間部）15.8%、短期大学（昼間部）17.7%に比べて、修士課程は 11.0%、博士課程は 9.1%、専門職学位課程は 12.6%とやや低くなっている。また、「あまりない」「全くない」と回答した割合は、すべての学校区分において 80%を超えており、「全くない」と回答した割合は、すべての学校区分において概ね 5割～7割となっている。

なお、前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」を「大いにある」と回答した割合は 2.7ポイント減少しており、一方、「経済的に勉強を続けることが難しい」を「全くない」と回答した割合は 3.7ポイント増加している。

S表 学生の不安や悩み

[単位: %]

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていけない	大学(昼間部)	3.9	27.7	41.3	27.1	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	2.5	26.3	46.5	24.6	0.2	100.0
	大学院修士課程	2.3	17.4	38.2	42.0	0.0	100.0
	大学院博士課程	2.4	11.2	28.6	57.5	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	3.4	25.9	41.0	29.6	0.1	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	大学(昼間部)	12.7	28.1	28.9	30.3	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	8.5	18.8	30.7	42.0	0.0	100.0
	大学院修士課程	6.0	19.1	30.5	44.3	0.1	100.0
	大学院博士課程	3.7	13.4	24.8	57.9	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	3.2	12.9	25.1	58.7	0.0	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	大学(昼間部)	29.4	38.3	15.3	16.9	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	20.9	33.3	19.8	25.9	0.2	100.0
	大学院修士課程	20.7	26.2	16.9	36.1	0.1	100.0
	大学院博士課程	21.0	21.9	16.6	40.2	0.3	100.0
	大学院専門職学位課程	17.6	19.5	15.5	47.2	0.2	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	大学(昼間部)	2.3	11.5	37.4	48.7	0.1	100.0
	短期大学(昼間部)	2.5	10.5	36.9	49.9	0.1	100.0
	大学院修士課程	4.8	16.0	29.9	49.2	0.1	100.0
	大学院博士課程	7.5	20.4	27.1	44.7	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	4.2	16.6	26.3	52.8	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	大学(昼間部)	3.0	12.8	34.7	49.5	0.0	100.0
	短期大学(昼間部)	3.2	14.5	34.2	48.1	0.0	100.0
	大学院修士課程	2.1	8.9	29.4	59.6	0.1	100.0
	大学院博士課程	2.0	7.1	23.4	67.2	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	2.4	10.2	26.8	60.5	0.1	100.0

(参考)平成28年度調査

[単位: %]

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
大学 (昼間部)	授業の内容についていけない	4.3	28.6	41.0	26.0	0.1	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	13.1	28.5	28.4	30.0	0.1	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	32.1	37.2	14.5	16.1	0.1	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	2.5	13.5	38.9	45.0	0.1	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	3.4	13.2	36.2	47.1	0.0	100.0

③表 居住形態別・設置者別の学生生活費

区分	自 宅		下宿、アパート、その他		全居住形態平均				
	学 費	生活費	学 費	生活費	学 費	生活費			
大学（昼間部）	国立	699,200 円 (△0.1%)	423,100 円 (8.3%)	614,000 円 (△1.5%)	1,151,800 円 (2.8%)	1,765,800 円 (1.3%)	885,500 円 (1.9%)	1,523,200 円 (0.8%)	
	公立	711,600 (0.1%)	418,700 (7.3%)	629,600 (0.1%)	1,052,300 (0.6%)	1,681,900 (0.4%)	666,700 (0.8%)	1,434,700 (0.2%)	
	私立	1,374,600 (2.4%)	436,200 (4.7%)	1,394,900 (△0.6%)	1,100,400 (1.0%)	2,485,300 (0.1%)	1,373,900 (1.0%)	659,700 (2.6%)	2,033,600 (1.5%)
	平均	1,279,900 (2.0%)	434,100 (5.2%)	1,109,600 (0.3%)	1,111,400 (1.5%)	2,221,000 (0.9%)	1,208,800 (1.3%)	704,700 (2.0%)	1,913,500 (1.6%)
短期大学（昼間部）	国立	
	公立	555,500 (△1.5%)	339,700 (8.7%)	473,800 (△2.0%)	867,100 (0.5%)	1,340,900 (△0.4%)	510,400 (△1.7%)	599,400 (1.7%)	1,109,800 (0.1%)
	私立	1,142,200 (0.2%)	389,200 (7.7%)	1,069,400 (2.1%)	1,009,700 (6.8%)	2,079,100 (4.4%)	1,121,900 (0.1%)	534,400 (8.4%)	1,656,300 (2.6%)
	平均	1,122,400 (0.1%)	387,500 (7.7%)	997,200 (2.3%)	992,500 (6.2%)	1,989,700 (4.2%)	1,089,800 (0.0%)	537,800 (8.0%)	1,627,600 (2.5%)
修士課程	国立	672,900 (△0.4%)	565,800 (8.2%)	574,300 (△0.5%)	1,324,900 (2.8%)	1,899,200 (1.8%)	601,100 (△0.6%)	1,079,500 (3.7%)	1,660,600 (2.1%)
	公立	722,600 (△0.6%)	568,100 (△12.3%)	627,800 (1.8%)	1,279,800 (0.5%)	1,907,600 (0.9%)	672,100 (1.8%)	922,200 (△6.7%)	1,594,300 (△3.3%)
	私立	1,166,100 (1.2%)	593,100 (3.4%)	1,051,700 (△0.1%)	1,373,100 (1.8%)	2,424,800 (1.8%)	1,120,300 (0.9%)	904,400 (0.8%)	2,024,700 (0.8%)
	平均	911,000 (0.9%)	578,900 (4.4%)	686,800 (△0.4%)	1,333,600 (2.5%)	2,020,400 (1.5%)	776,700 (0.5%)	1,012,100 (2.1%)	1,788,800 (1.4%)
博士課程	国立	693,700 (△5.2%)	1,190,300 (2.9%)	534,800 (△4.4%)	1,834,400 (4.0%)	2,369,200 (2.0%)	578,100 (△4.3%)	1,627,100 (3.7%)	2,205,200 (1.5%)
	公立	782,700 (0.7%)	1,479,700 (9.9%)	691,800 (8.2%)	2,150,100 (6.1%)	2,841,900 (6.6%)	724,900 (6.2%)	1,824,800 (4.0%)	2,549,700 (4.6%)
	私立	966,300 (1.4%)	1,197,300 (12.2%)	848,900 (△1.3%)	1,984,200 (0.9%)	2,833,100 (0.2%)	905,200 (0.4%)	1,600,600 (4.9%)	2,505,800 (3.2%)
	平均	798,900 (△1.8%)	1,211,600 (6.7%)	606,300 (△2.7%)	1,878,700 (3.3%)	2,485,000 (1.8%)	669,600 (△1.8%)	1,630,300 (3.9%)	2,299,900 (2.2%)
専門職学位課程	国立	747,500 (△4.3%)	721,800 (3.9%)	689,700 (△2.7%)	1,410,500 (△1.1%)	2,100,200 (△1.7%)	700,500 (△3.0%)	1,102,500 (△3.1%)	1,803,000 (△3.1%)
	公立	817,900 (4.0%)	1,571,700 (52.4%)	732,400 (△3.2%)	2,122,400 (20.1%)	2,854,800 (13.1%)	781,700 (3.8%)	1,757,800 (38.6%)	2,539,500 (25.7%)
	私立	1,372,400 (△3.1%)	1,083,500 (1.5%)	1,295,800 (0.3%)	1,649,100 (△2.8%)	2,944,900 (△1.4%)	1,333,500 (△2.2%)	1,305,100 (△1.0%)	2,638,600 (△1.7%)
	平均	1,138,900 (△5.1%)	976,400 (2.3%)	985,800 (△1.0%)	1,546,600 (△1.4%)	2,532,400 (△1.2%)	1,052,000 (△3.2%)	1,235,200 (△0.8%)	2,287,200 (△1.9%)

(注) ()は、平成28年度調査からの伸び率である。